

令和5年3月22日

東京地方裁判所民事第34部合議甲B係 御中

録音反訳報告書

原告ら訴訟復代理人 弁護士 坂井 萌



当職は、貴庁令和3年(ワ)第23302号国家賠償請求事件において提出された甲152号証の音声記録の内容を聴取し、その一部を反訳しましたので、下記のとおり報告いたします。

記

1. 録音反訳を行った音声記録 (甲153)

日時 令和2年3月26日午後3時より
場所 千代田区霞が関1丁目1番1号所在の東京地方検察庁
内容 ■■■■■ 検事 (以下、■■■■■ 検事という。) による訴外 ■■■■■
(原告会社の従業員。以下、訴外 ■■■■■ という。) の取調べを録音
したもの。総録音時間3時間34分56秒。
録音者 訴外 ■■■■■

2. 録音反訳の方法

当職が音声記録を聴取し、会話の内容を反訳した。

3. 録音反訳の結果

反訳の全文は別紙のとおりである。

訴外 ■■■■■ は、冒頭4分24秒から48分08秒において、原告会社の噴霧乾燥器において、風が行き渡らず、温度が上がらない箇所がある旨の話を ■■■■■ 検事としていることが確認された。訴外 ■■■■■ は、冒頭55分36秒から1時間4分34秒においても、重ねて温度が上がりにくい箇所があることを指摘している。

訴外 ■■■■■ は、冒頭2時間14分8秒から2時間22分48秒において、たとえ熱風が菌にあたったとしても、粉の内部に菌がある状態であれば菌を殺すことはできないことを指摘していることが確認された。

訴外 ■■■■■ は、冒頭2時間35分23秒から2時間35分50秒において

原告会社の噴霧乾燥器の内部で空気が淀んでいるため、菌の影響を低減させることのできない箇所が存在する旨を■■■■検事に対し供述していることが確認された。

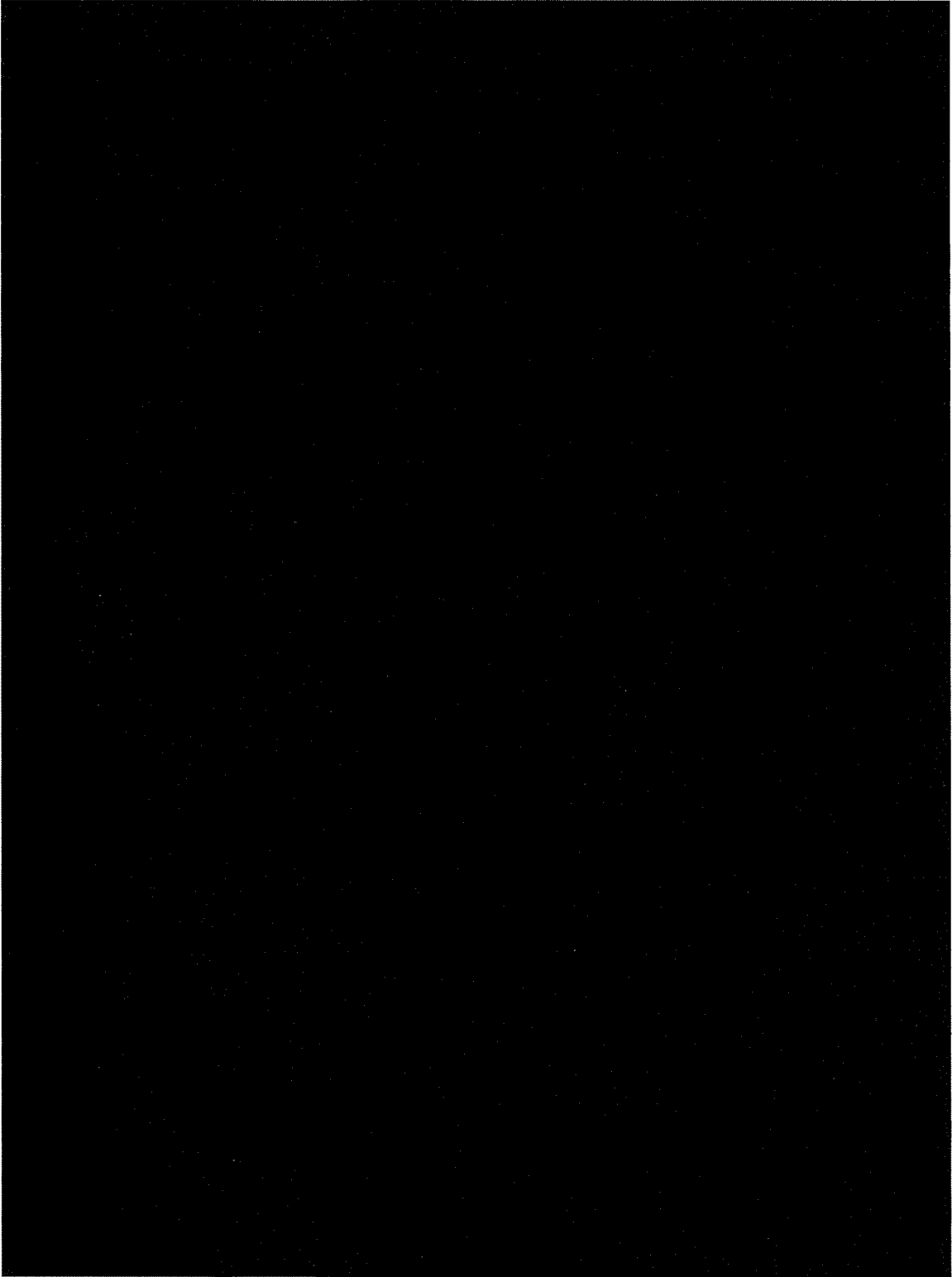
また、冒頭2時間51分20秒から2時間53分47秒において熱風が行き届かず温度が上がりにくい箇所があることについての会話がなされていることが確認された。

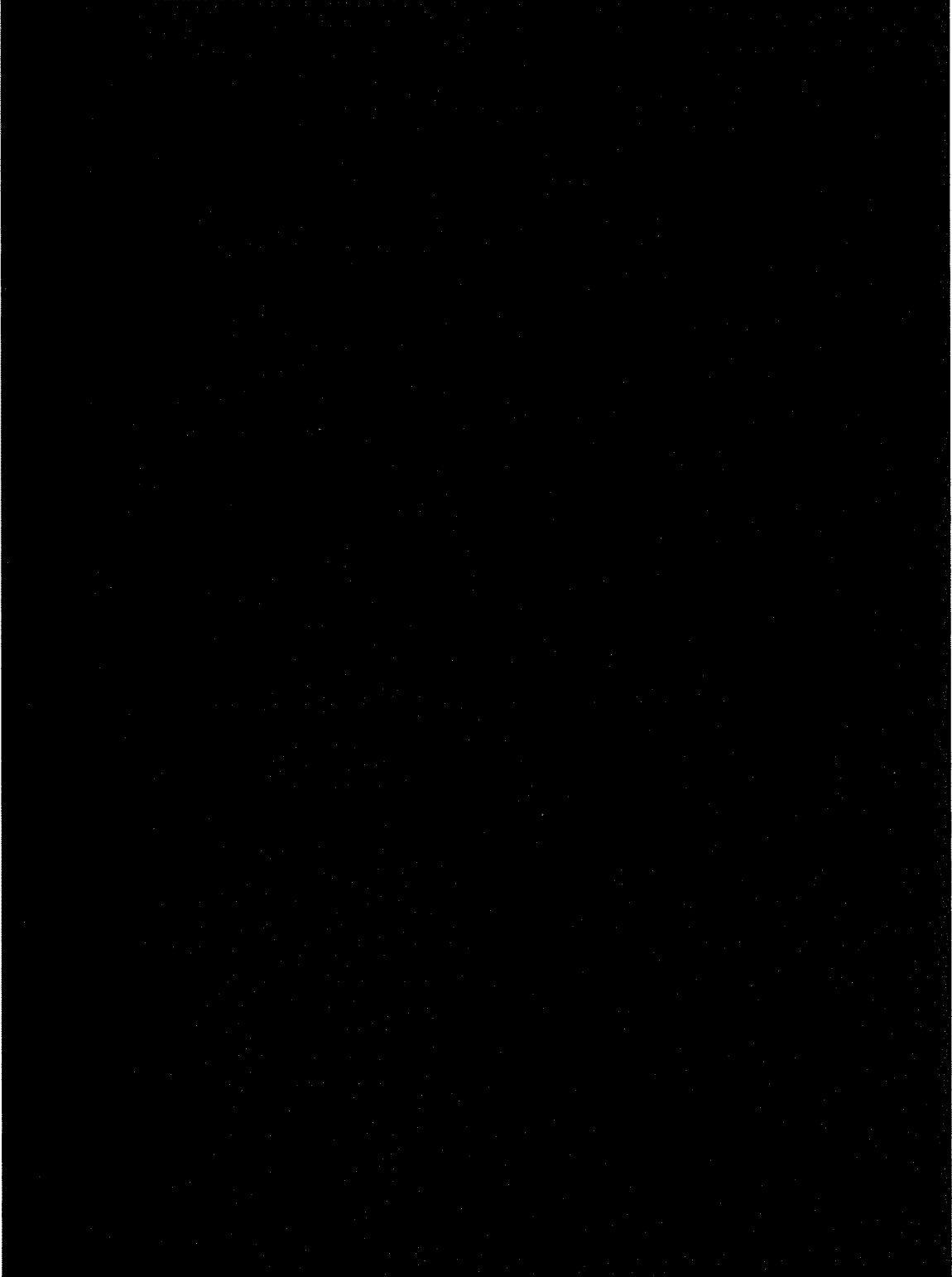
冒頭3時間30分43秒から3時間31分47秒においては、■■■■検事自身が原告会社の噴霧乾燥器内部の温度が上がりきらない箇所を調査する必要があることについて言及していることが確認された（以上別紙において下線を付けた部分をご参照）。

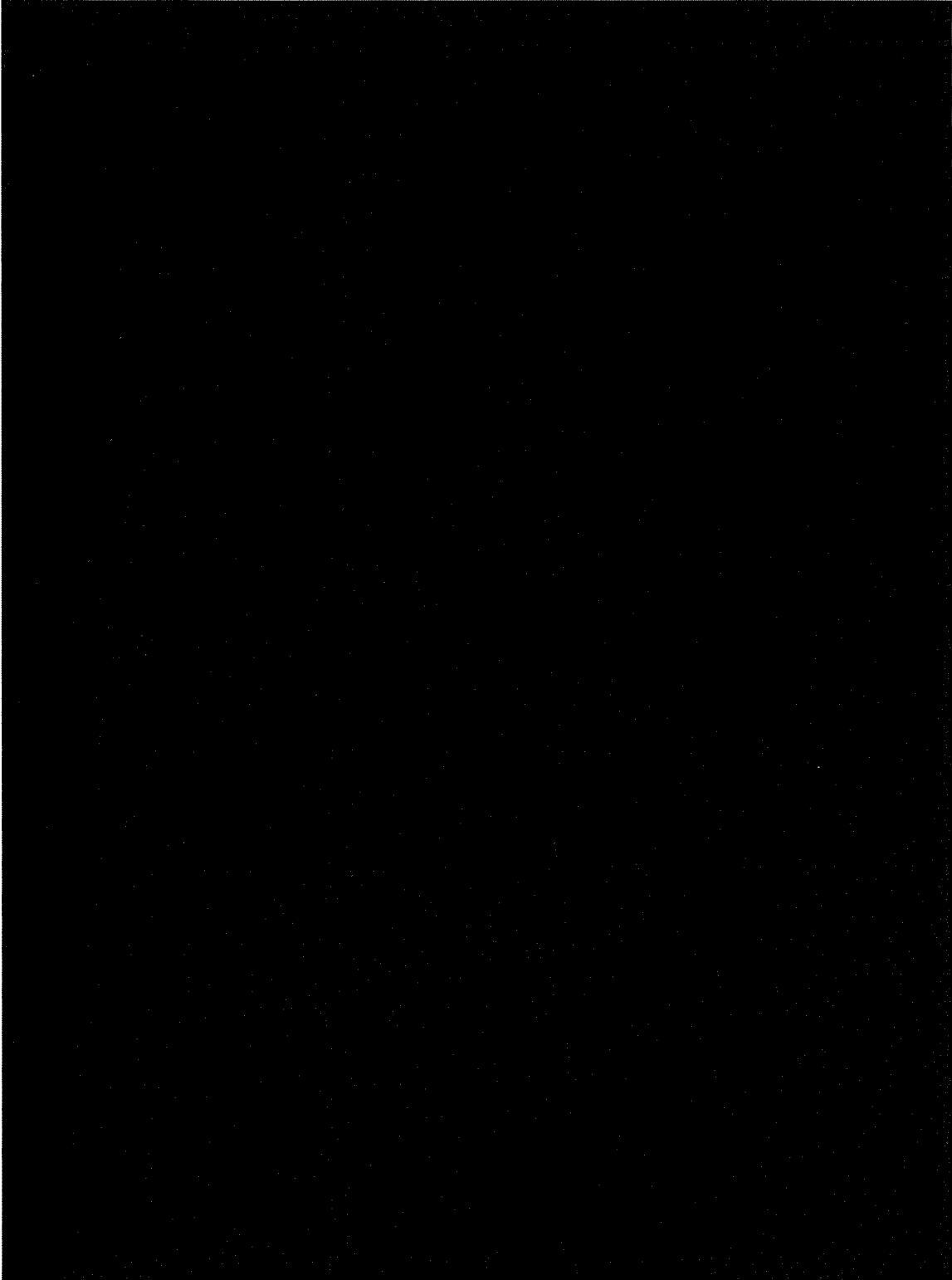
以 上

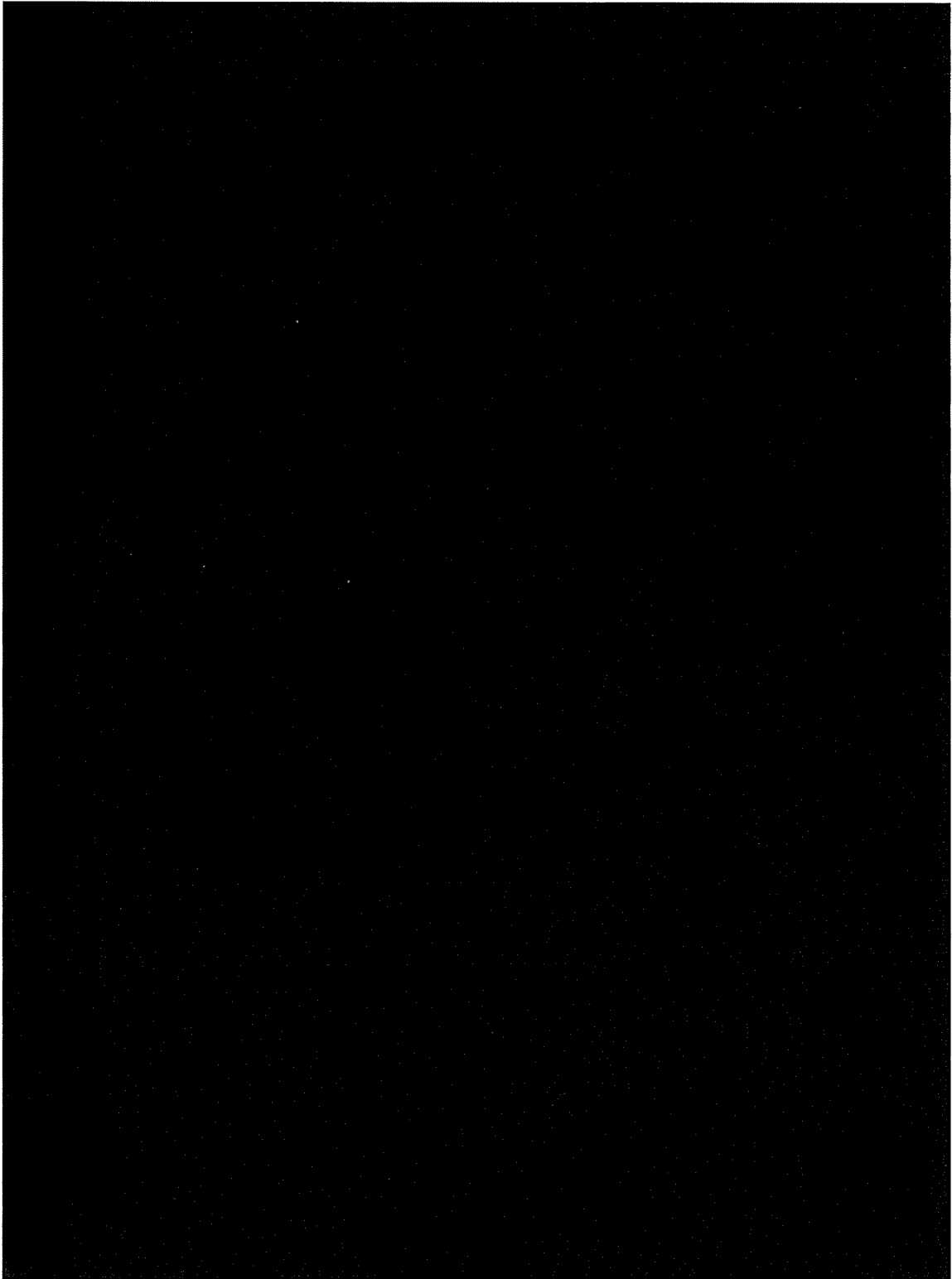
別紙

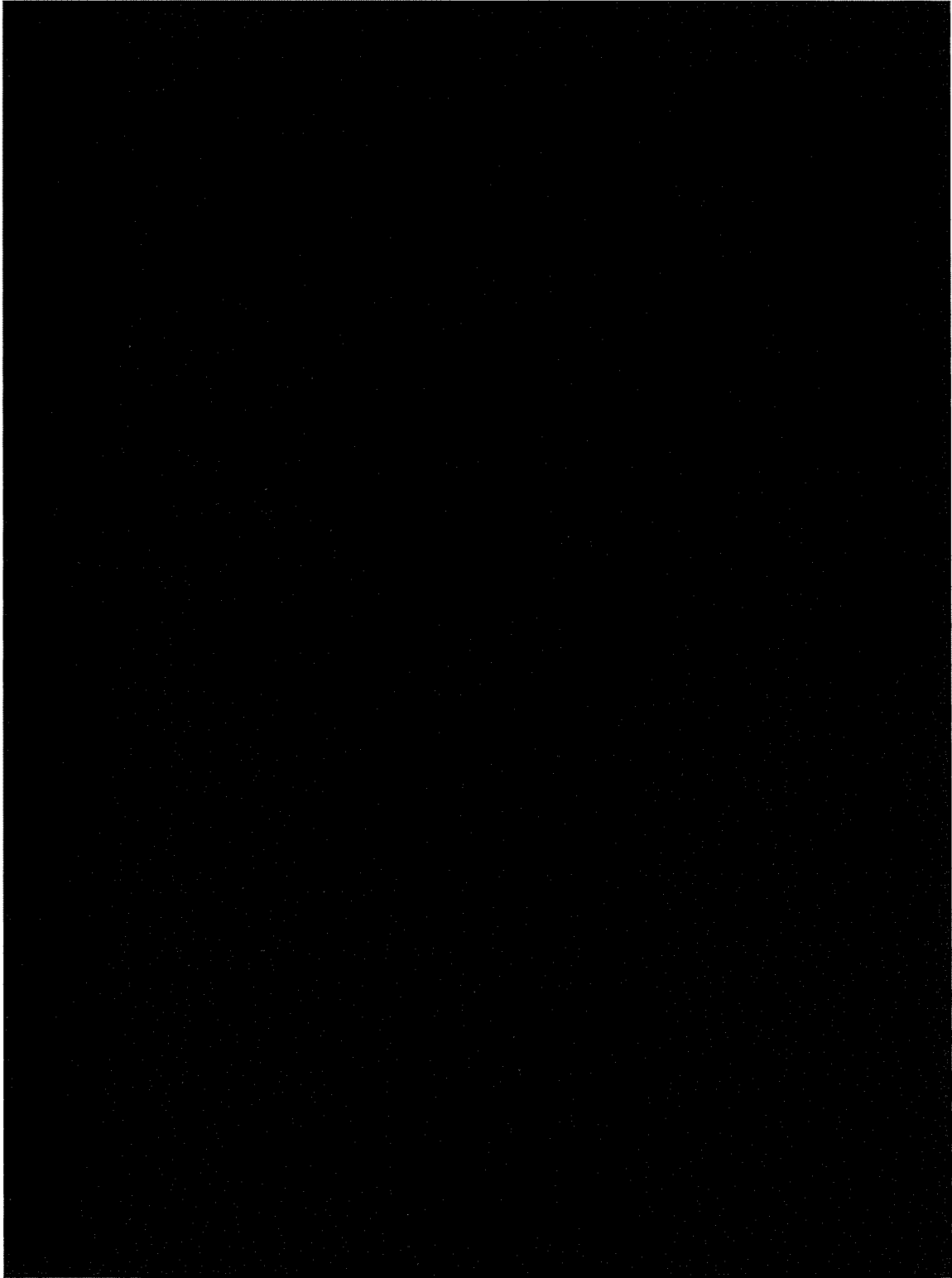


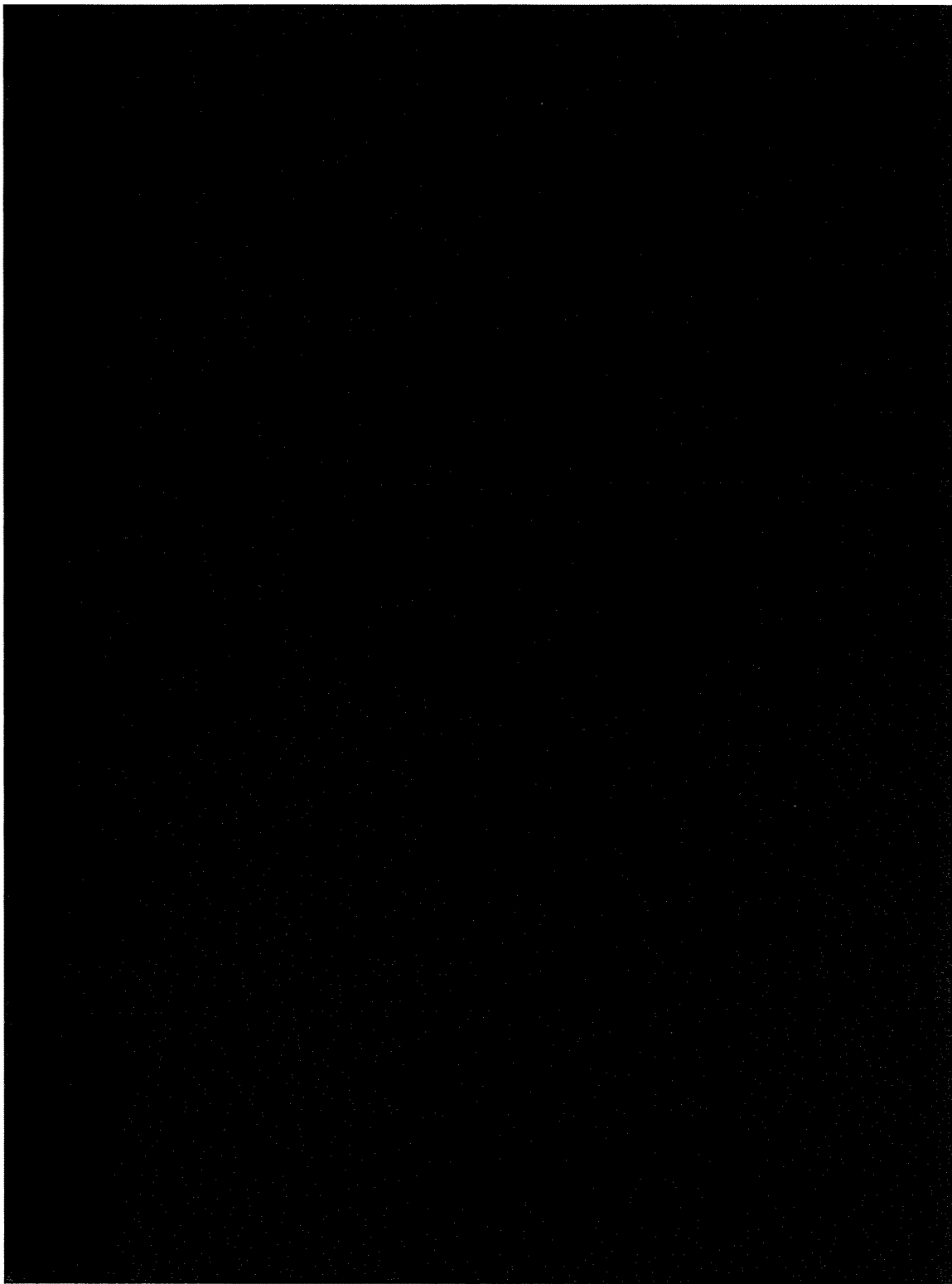


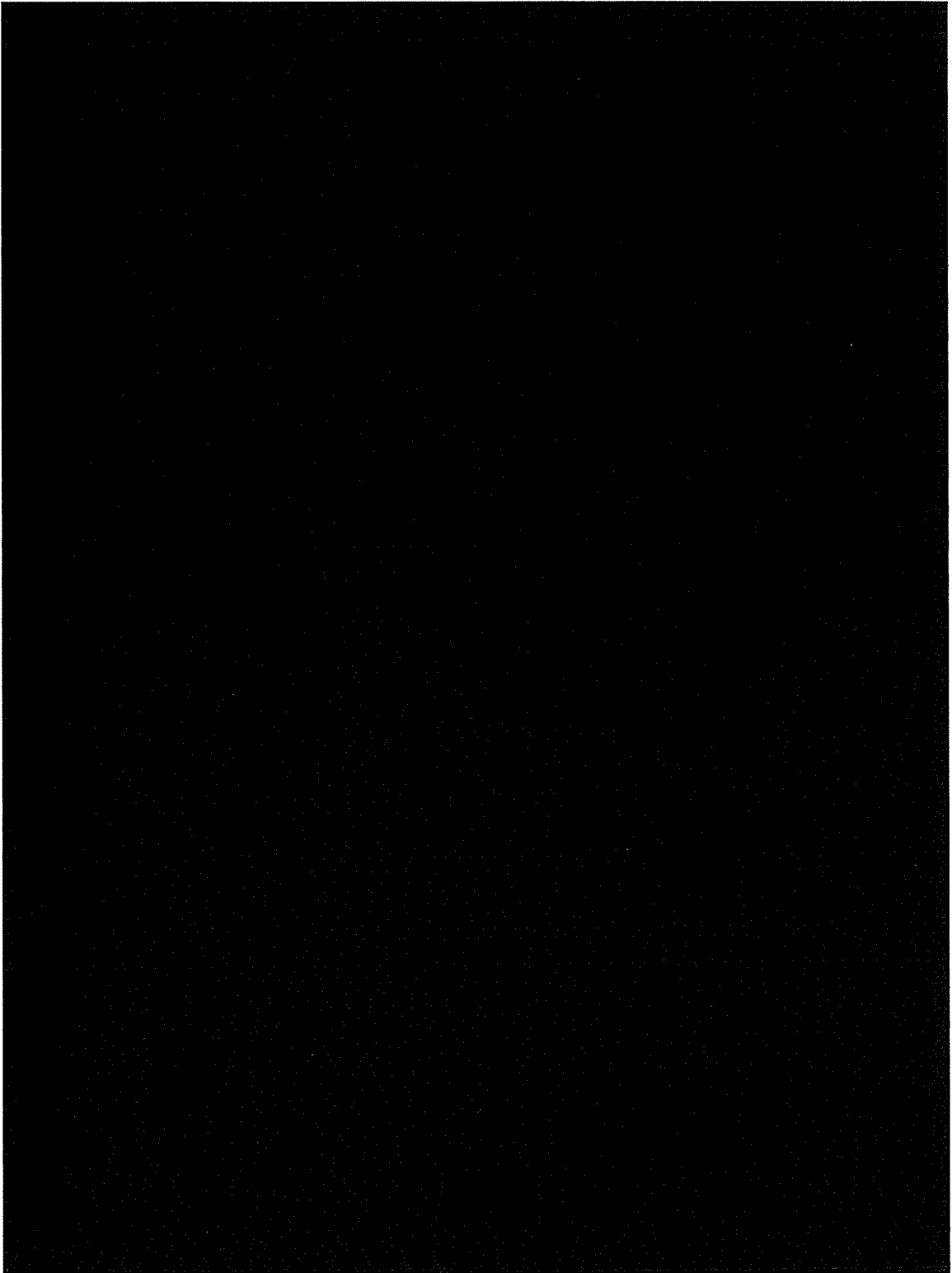


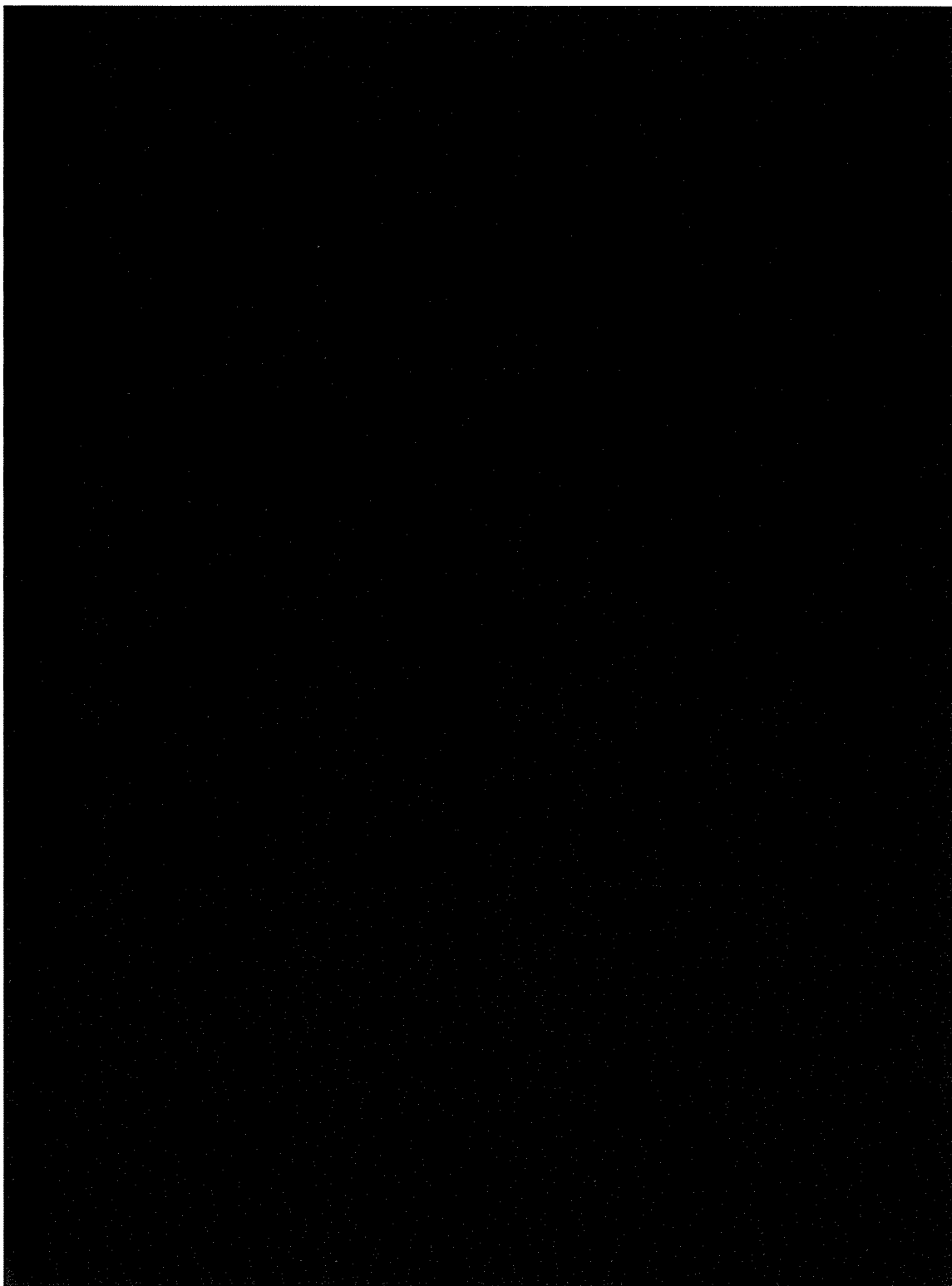


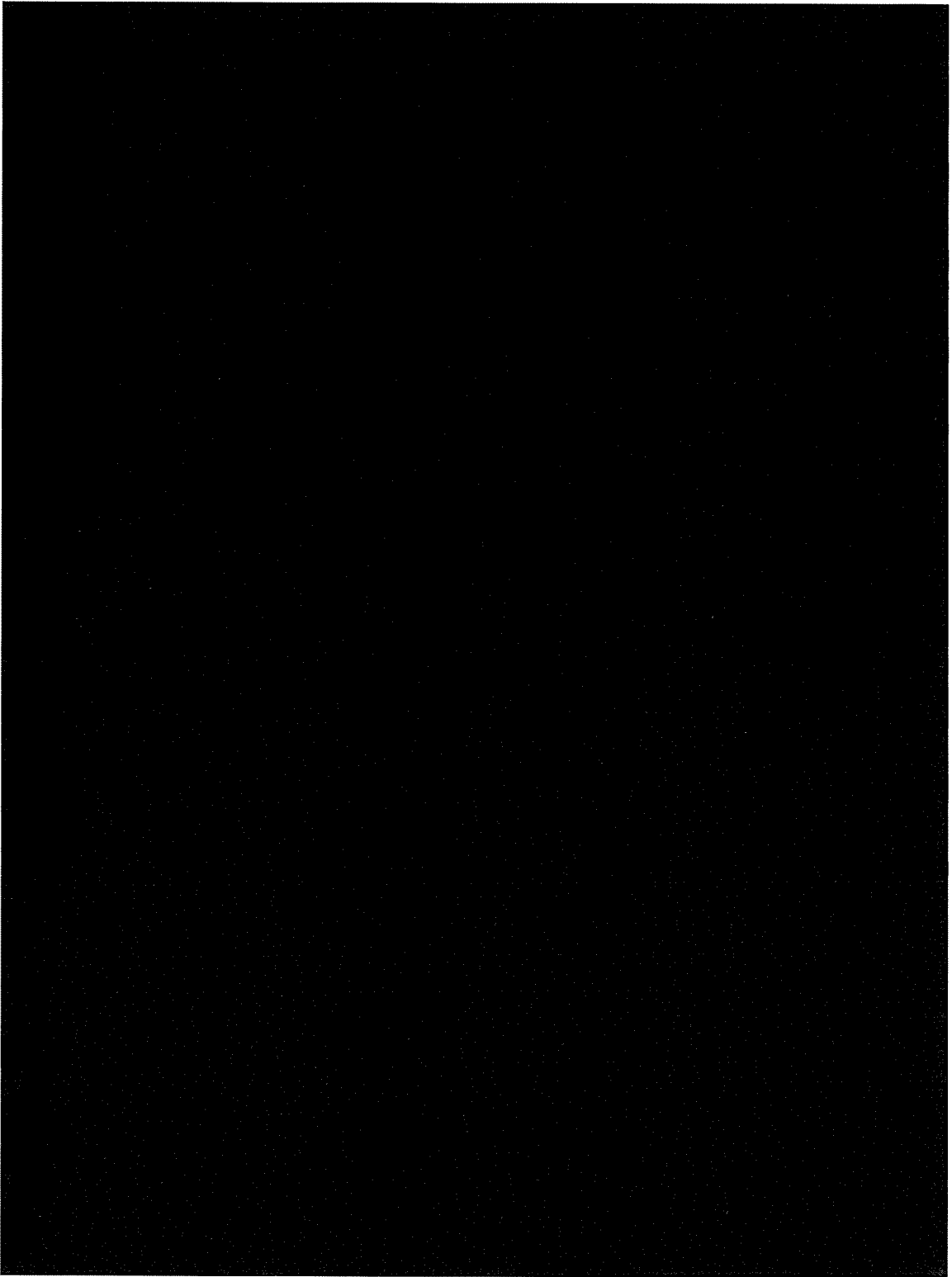


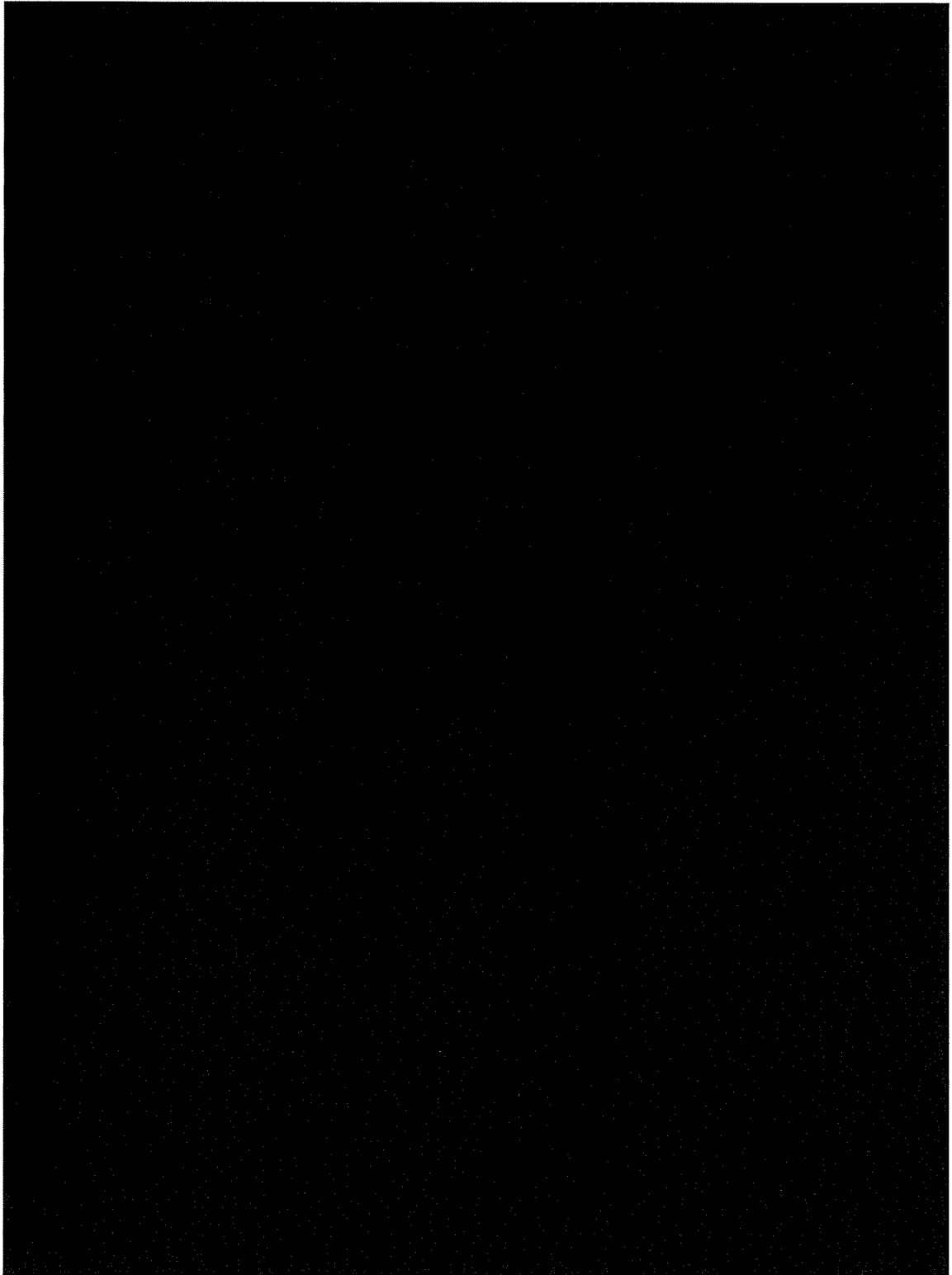


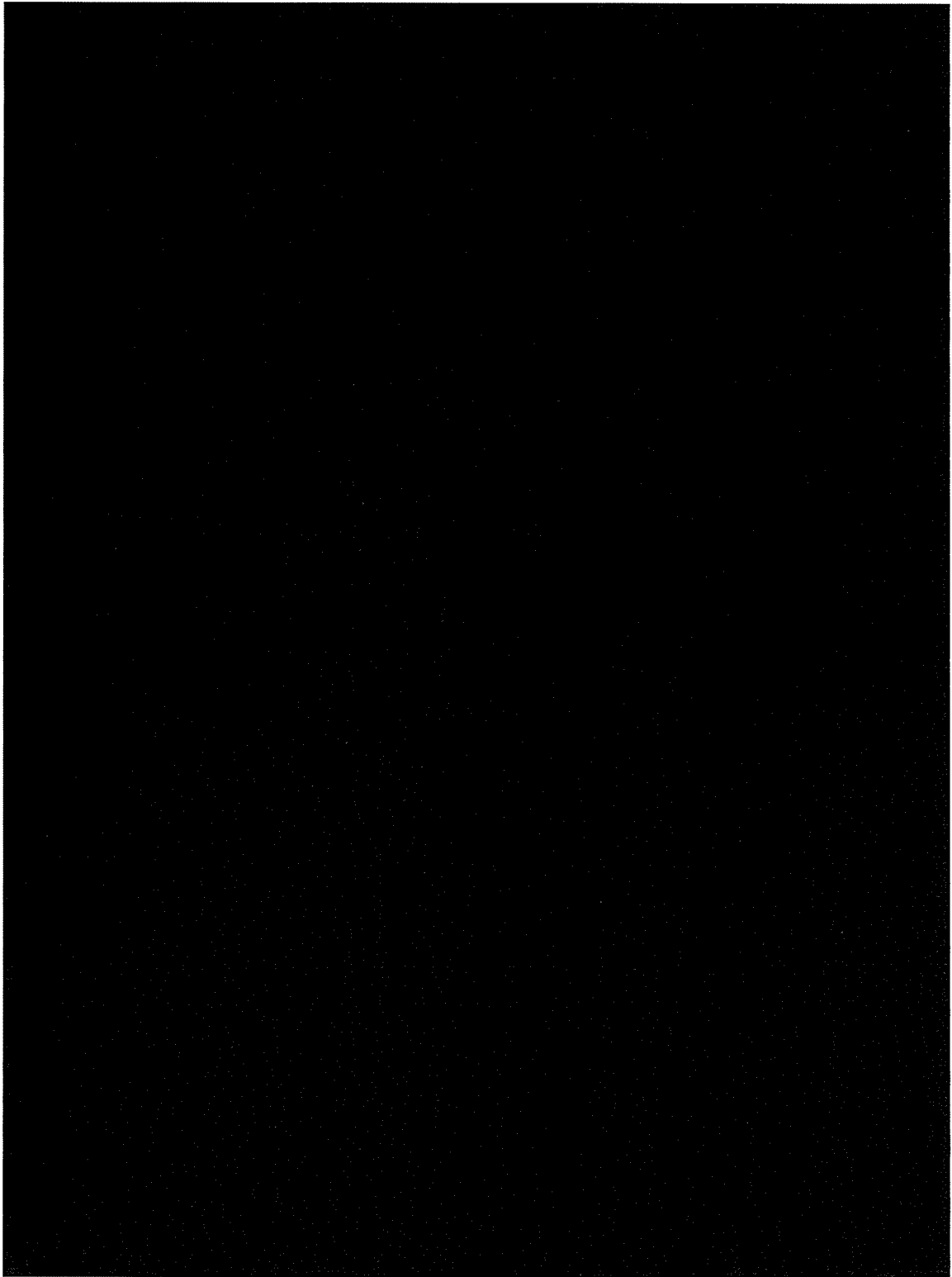


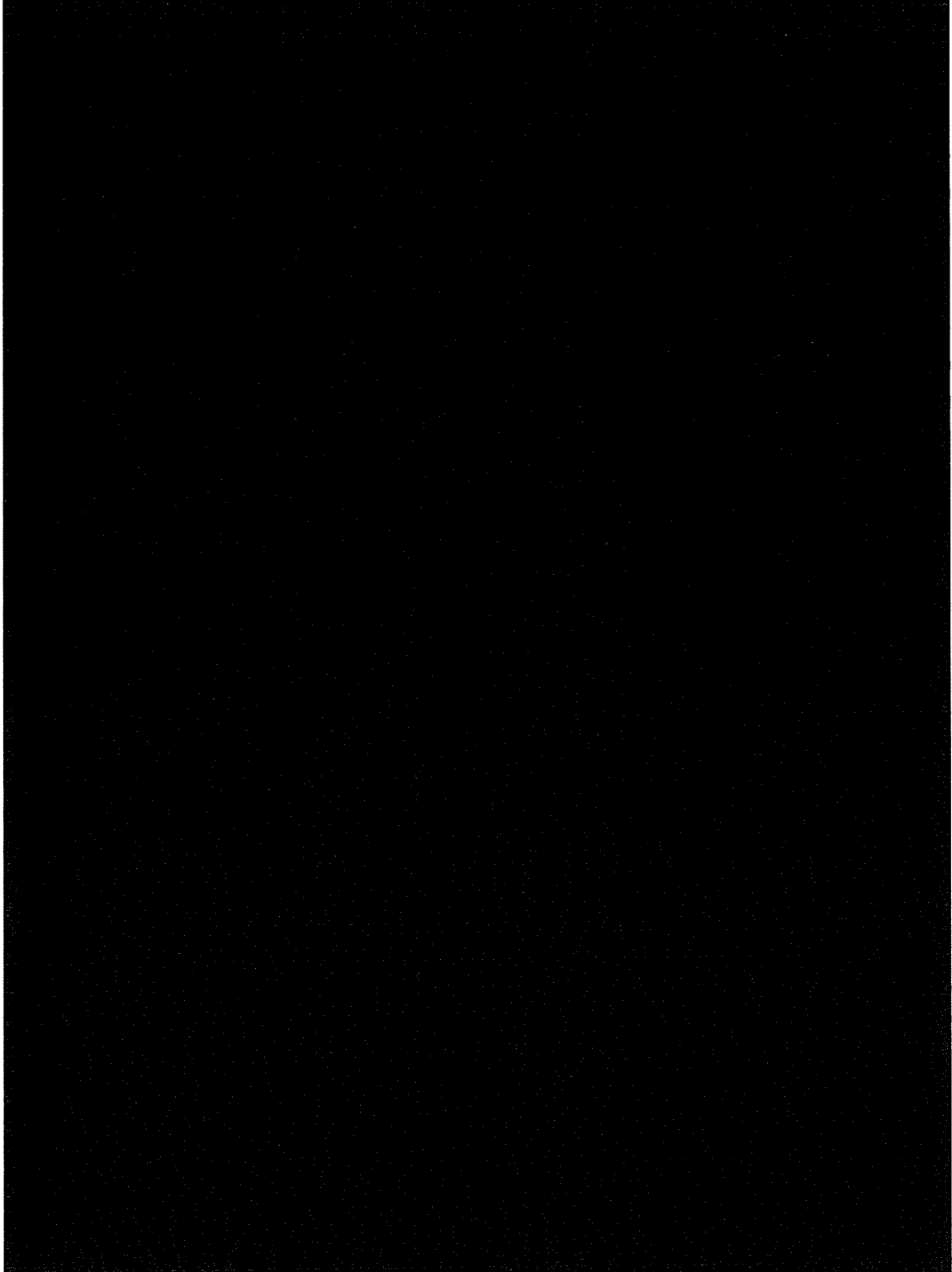


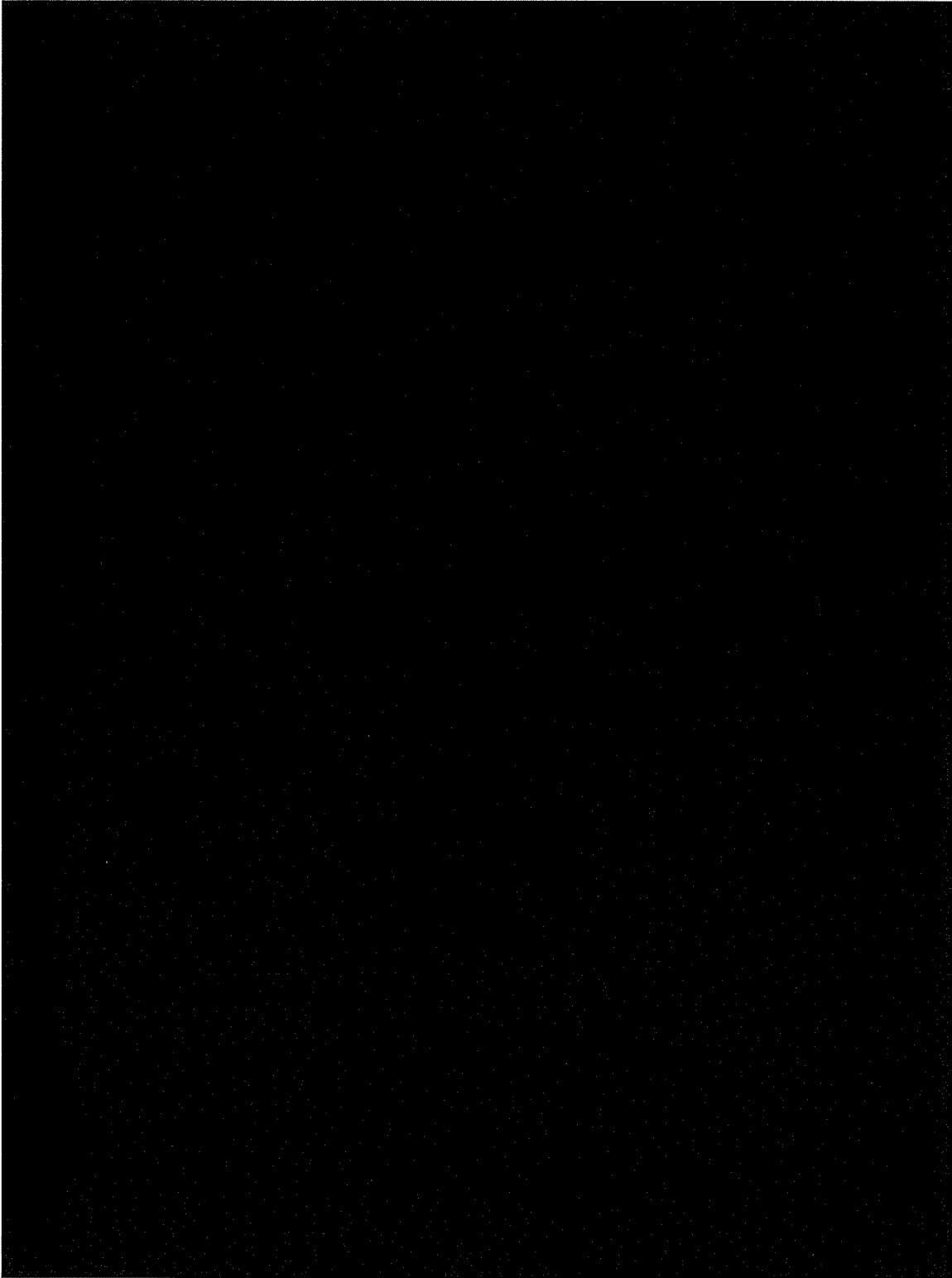


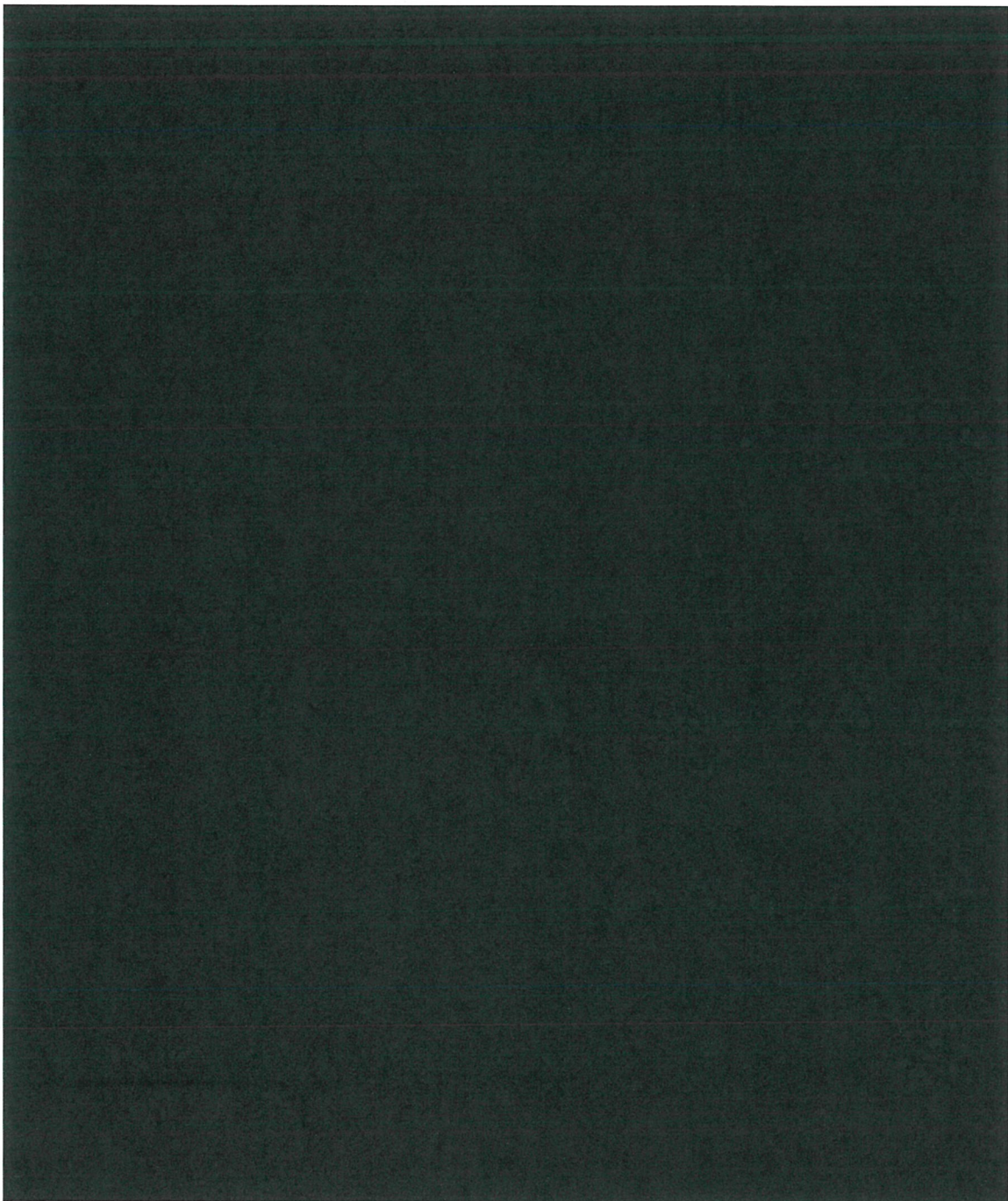












要は流体の流れるここですね。そこまで 150 度まで上がるかっていうとそれもまた場所にもよりますし、上がらないところは上がらない。もう外がむき出しで放熱だったらどんどんそこから結局冷めていくことになりますので、流体が 150 度流れたとしてもこの温度という

のは 150 度まで上がらないってということになりますので。

■ 大体その場合どれくらい上がるの？表面は。その放熱っていうのはどれくらい見込んでおけば良いですか。

■ どのくらい・・・その速度にもよるので・・・どうですかね、そのケースバイケースですね。

■ いや 250 度の熱を入れて出口 150 度で中で例えば 100 度まで満たないようなところなんかも出てくるのかな。

■ 製品の回収容器なんかとかはもう全然低いですね。60 度とかそのくらいになりますね。

■ 回収容器？

■ はい。

■ そこは温度が、回収容器ってどこの部分でしたっけ？ドライヤーの下のところ？

■ とかあとはサイクロンの下とかですね、粉体回収容器のところ。スプレードライヤーは元々いわゆるひいんをあげないように製品を取るといったのは一つの特徴になっていますので。そういったようなところは特に熱を入れている。

■ その製品を回収する容器はここに含まれてるのかどうかよくわからないんですけども、スプレードライヤーの内部の滅菌また殺菌をすることができるものという風には読めますんで。

■ すいません。どこの部分を？

■ ごめんなさい。定置した状態で内部の滅菌または殺菌をすることができると・・・

■ はいはいはい。

■ どこまで指しているのかって。スプレードライヤーも入っているのか、そのあとの容器まで入っちゃうのかっていうのがよくわからない。スプレードライヤーっていうことかどうかですか。

■ スプレードライヤーっていうことであると、当然ながら基本的には・・・

■ 出口温度 150°C のときに中で、100 度にも満たないものは出てくる？

■ 結局排気の温度・・・、製品を回収するときっていうのは、回収要は重力後にするわけですね基本的には、もしくはフィルターに通して粉をとるか。結局サイクロンで、風がこうい

うふうに流れてきて、上に反転するときガスが。そのときに下向きの力が、粉体固形部に関わるので、ガスは反転するとき、こういう流れのときに、粉は下にボトンと落ちてガスが上に逃げていく。それで粉だけ回収するわけですね。とするとその容器の中とか、そういったようなところ、もしくは流体に対して、こう風が流れてるところに対して角のところ、この辺などについては上がらないところが出てきます。

■ その部分もスプレードライヤー？

■ 当然スプレードライ、要は熱風はこう流れて、本体の例えば、本体ありますよね。この角だってそれに該当するわけですよ、結局。風がこういうふう流れてるところ、熱風が流れてるところの上の部分ですとかそういったようなあとは製品、いわゆるスプレードライヤーもまた、これもどこまでスプレードライヤーなのかっていう・・・そこにもなりますけれども。

■ 風が流れる部分、限定した方がたぶんいいですかね、そうするとね。

■ 我々は結局スプレードライヤーは何をする装置かっていうと、液滴を微粒化して熱風と効率よく接触させて製品を回収する装置というのがスプレードライヤーだというふうに思いますので、当然ながら回収容器の部分についても、いわゆる装置の一部ということにはなるという認識ですけども。

■ なるほど回収容器の部分はその高圧の風が入ってこないところですよ。当然温度は上がらない。ガスはそれまでの部分はサイクロン含めて行って最終的に出口の方に乗ってくるってということなんですね。

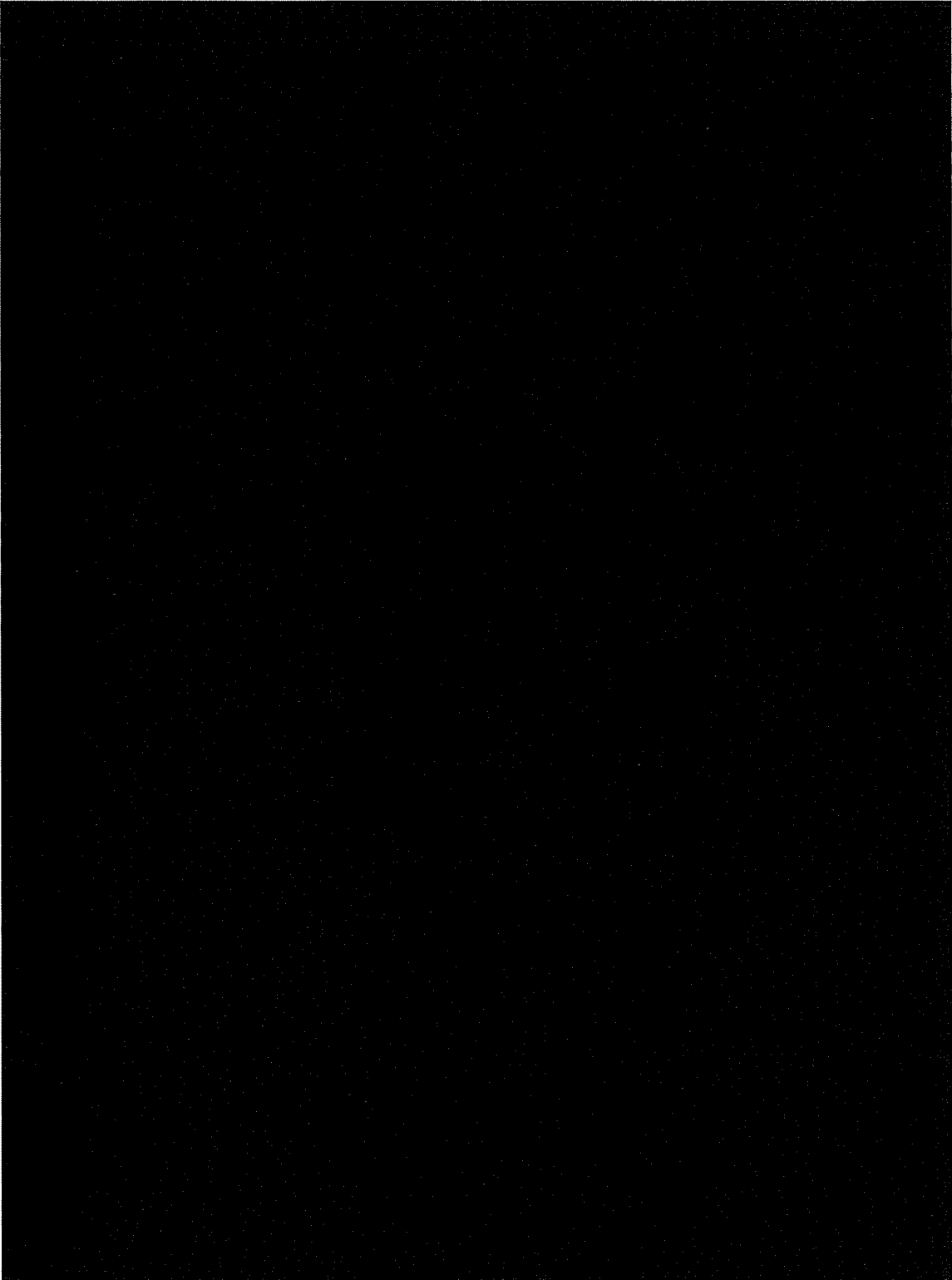
■ そうですね。

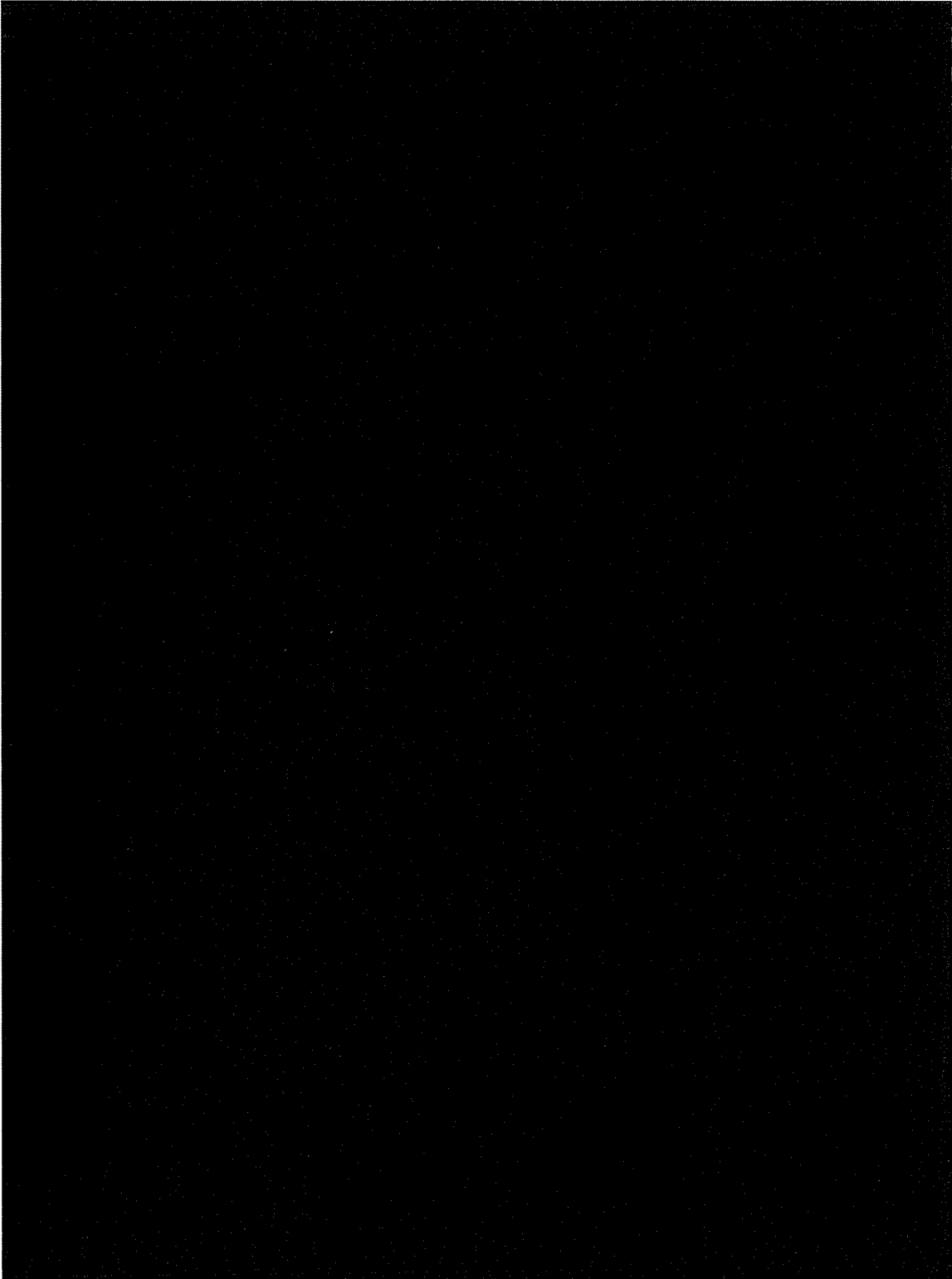
■ たぶん連動が悪かったりとか、放熱部分もあるんで、出口温度と同じ温度がまんべんなく行くわけじゃないってということですね。そういうご意見ですね。それを考えるとその一般生菌すら殺菌はできないってご意見ですか。

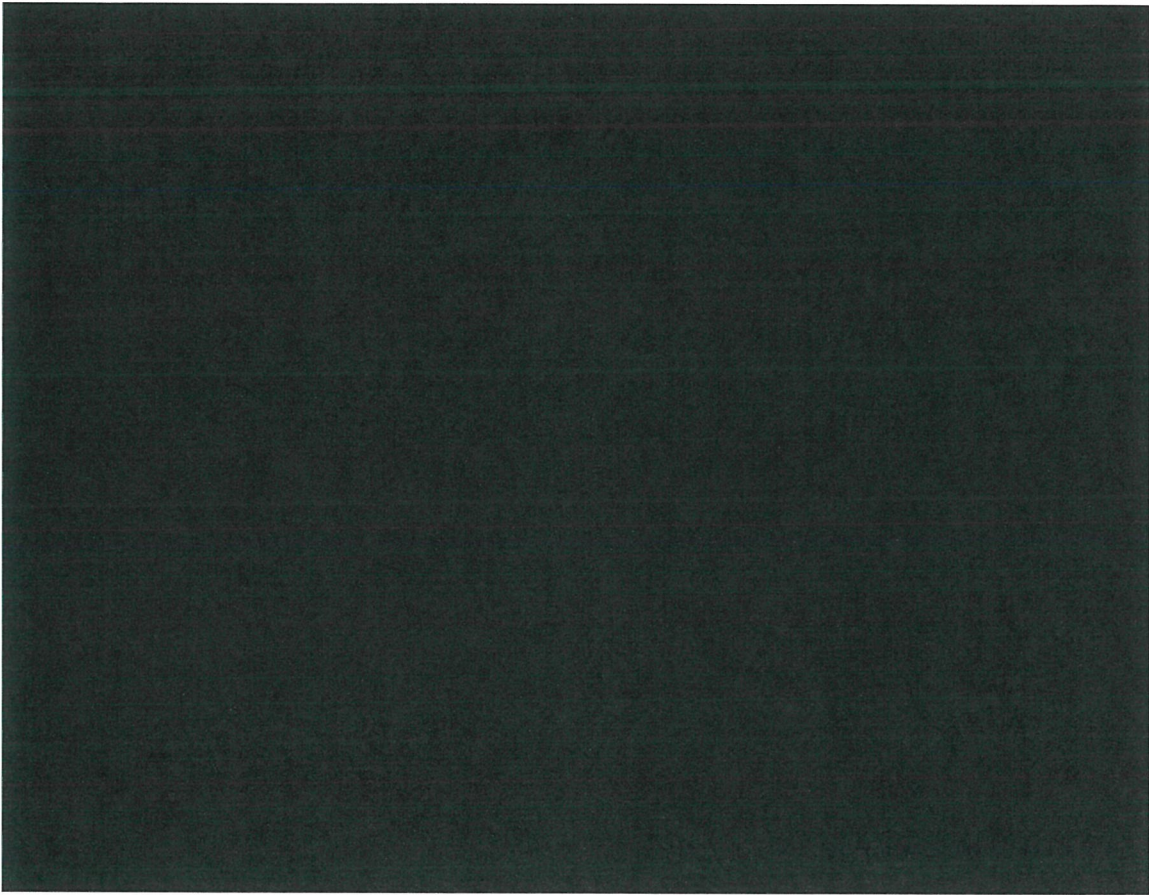
■ それはいわゆる影響がないぐらい、滅菌に近いぐらいまで菌を低減できるという意味ですかね。

■ いや、わかんないんですけど、それはここでは滅菌また殺菌としか書いてない。

■ だから滅菌という意味では私は難しいと思います。







そうすると内部はどれぐらいの温度？最も低い所で。

内部、最も低いところでは・・・

風が通るところとしましょう。風が通るところっていうか、製品の回収ボックスはどんな状態なんですか？そこはいくら上げてもし上がらないわけですよね。

そうですね。そこは上がらないところは上がらないですね。ですのでそういう条件ならどうですかね、100度ぐらいに上がると思いますけど。ただその条件にもよりますが、その装置がまだ保温されてるのかされていなのかとか、その部分は保温されてる、要は保温材が巻かれているのかと、放熱する条件なのかどうか。

その部分とおっしゃいますと？どこですか。

例えばダクトとかそういったところ。

何か、外からわかるというのかどうか？

によっても変わりますので、あらゆる過程によりますね。

それが可能かどうかという表記になってるんで、することができるかどうかということなんですね。

する？

定置した状態で内部の滅菌又は殺菌をすることができるかどうかということですよ。

だから 60 度ぐらいで死滅する菌だったらできると思いますけれども。条件にはよると言います。

大体どれぐらいの温度差っていうのを見た方がいいんですかね。出口温度とその内部の温度が上がりにくい場所の温度差。

温度差っていうか、通常の条件だったらせいぜい 60°C ぐらいしか上がらないんじゃないですかね、場所によっては。

どんだけ入口の温度を上げてても？

そうですね、通常の運転条件では。

通常の運転条件というのは？

先ほど言ったように出口が 150 とか、そのくらいであれば。

入り口は 200°C？

200°C ですね。であっても。

そこは入口温度を上げてても上がらないんですか。

結局だから放熱との関係でたぶん、飽和状態えーと、平行状態になるので上がらないと思います。

そこら辺は何か出口温度との差、入口温度との差っていうところはなんとなく測定できるんですか。

入口温度、出口温度は常に測定してます。

相関はあるんですか。上がりにくいところは。

ええ。ごめんなさい。上がりにくいところは相関があるのか・・・

だから入口温度を上げればそこも温度差はあるけれども、少しやっぱり上がるのか。

上がりにくいところはさらに入口温度を上げれば上がるのか？

そうです。

たぶん 10 上げてても 1 しか上がらないとかそういう感じで・・・の相関かなと思います。具体的な数字はわからないけど、まずイメージとして要するに、上げ幅に対して効果的には上がらない、と思います。

差はどれぐらいあるのかっていうと？やっぱ 60 度ぐらい？

差？差っていうのは？

ごめんなさい。上がりにくいところは 60 度ぐらいまでしか上がらないっていう感じ？

60 度・・・そのぐらいじゃないかなと思いますけれども。

部分としては、場所としては、どこら辺なんですか。

ですのでいわゆる製品の回収容器とかその辺ですね。

回収容器？回収容器はとりあえず置いておいて。回収容器は風が通らないところですよ？

風は・・・ま、そうですねはい。うん。はい通らないというか、そうですね。

ガス一括通らないところですよ。

そうですねはい。

通るところで。

通るところで？

60 度を。

通るところだったらもうちょっと・・・

回収容器はガス通らないのではたぶんいくら温度上げても、ちょっとずつ上がるかなぐらいですね。おそらくね。イメージできますそれは。

そうですね。

何度になるかそれはちょっと・・・

いやどこまで落ちるものなのかなっていうところですね、温度が。

どこまで落ちるか・・・

出口温度との温度差ですよ。回収容器はどんだけ上げてもしせいぜい60℃ぐらいまで？

そうですね、はい。ちょっともう私、最近そんなにスプレードライヤーそんなにメインでやってないんで、感覚としてちょっとわからないですね。どんだけなのかっていう。あまりいい加減なことは言いたくないんで、ちょっと条件とかによると思うのでちょっとわからないですね。

そんな何十度も変わりそうですか？

はい。落ちるところは落ちると思います。

どれぐらい落ちるんですか？どういう部分がどれぐらい落ちるのかっていう。

えっとすいません、前提が入口が250度ぐらい？260度ぐらい？

壊れないぐらいの一番高い温度にしましょう。

出口がその150度ぐらい？

150ですかね、入口250、出口150って感じですか？先ほどそんな数字が出てたかと思うのですけど。

高くてもそのくらいだと思いますけれども。

空焚きした状態で？

はい。

250 から入れて出口は 150。そんなに差があります？

放熱大きいものは下がると思います。

放熱が大きいものとは、例えば？

保温材が薄いものだとか、巻いていない物もありますので機種によっては。

これぐらい下がることはある？

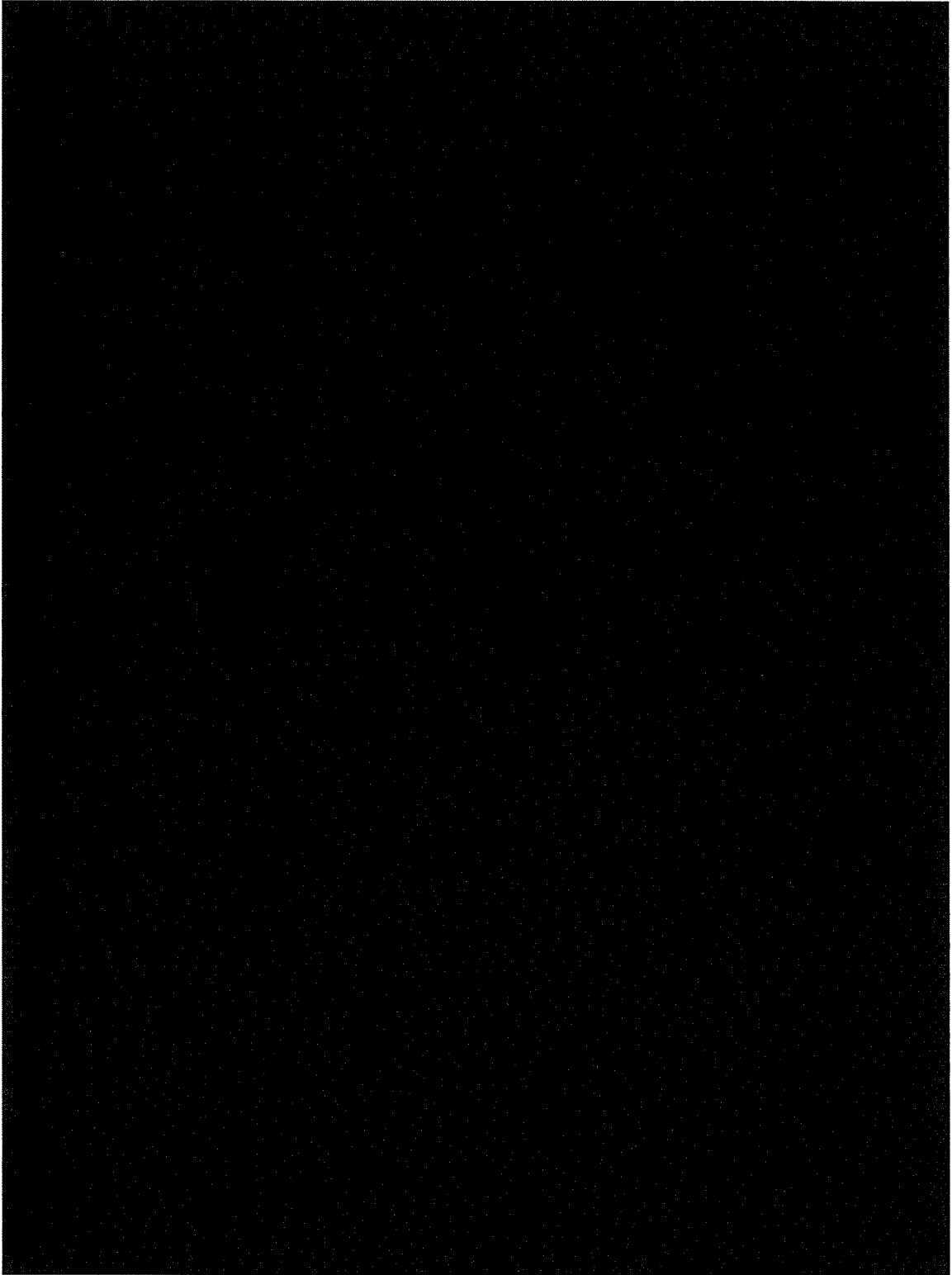
はい。

中のやつはもう 150 までいっていない部分があるんですよね。

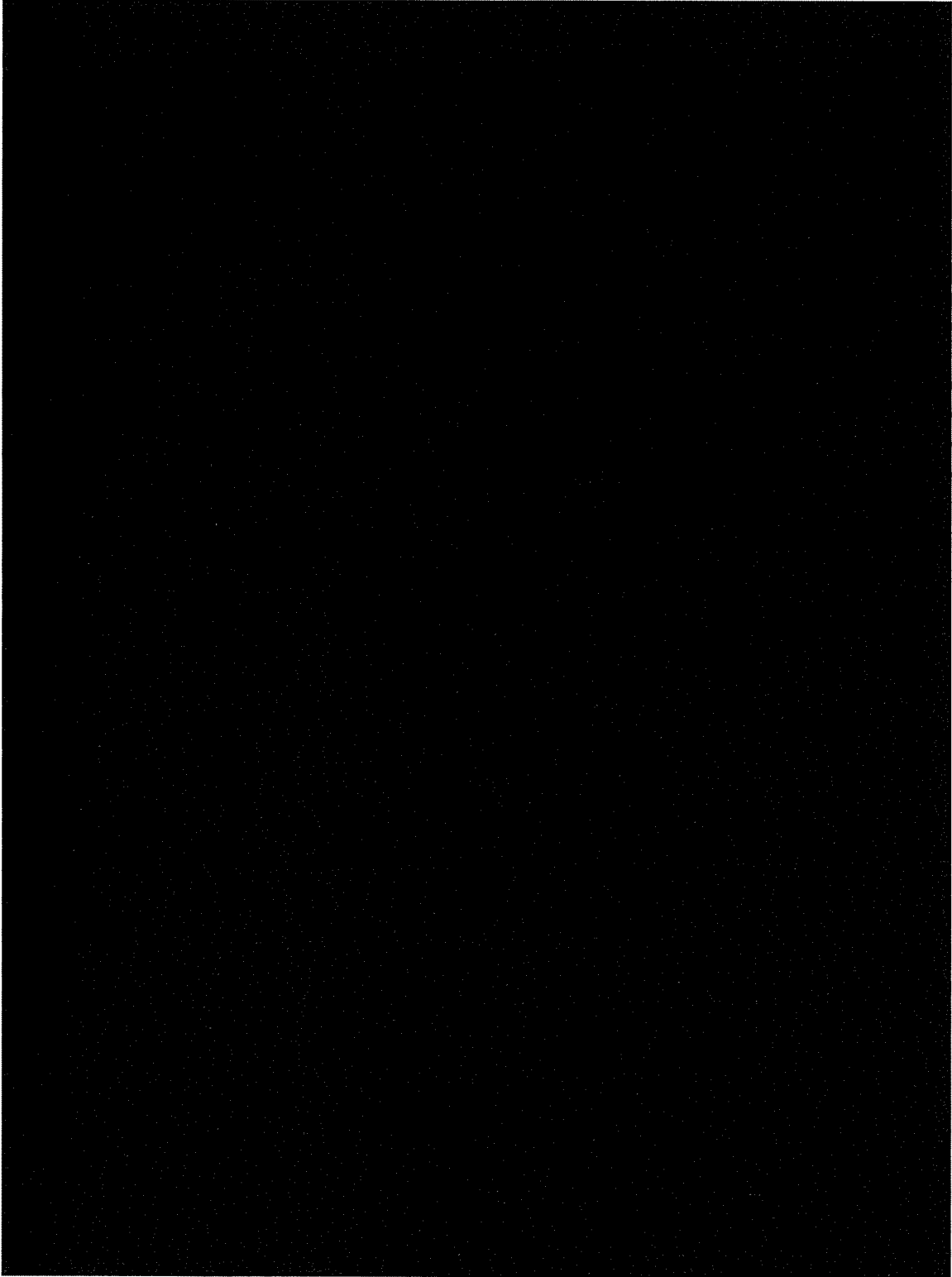
そうそう、流体が 150 流れたとしても表面、どうですかね・・・実験してみないとわからないですけども、80 度ぐらいとかそのぐらい低いところはそのぐらいになるんじゃないですかね。

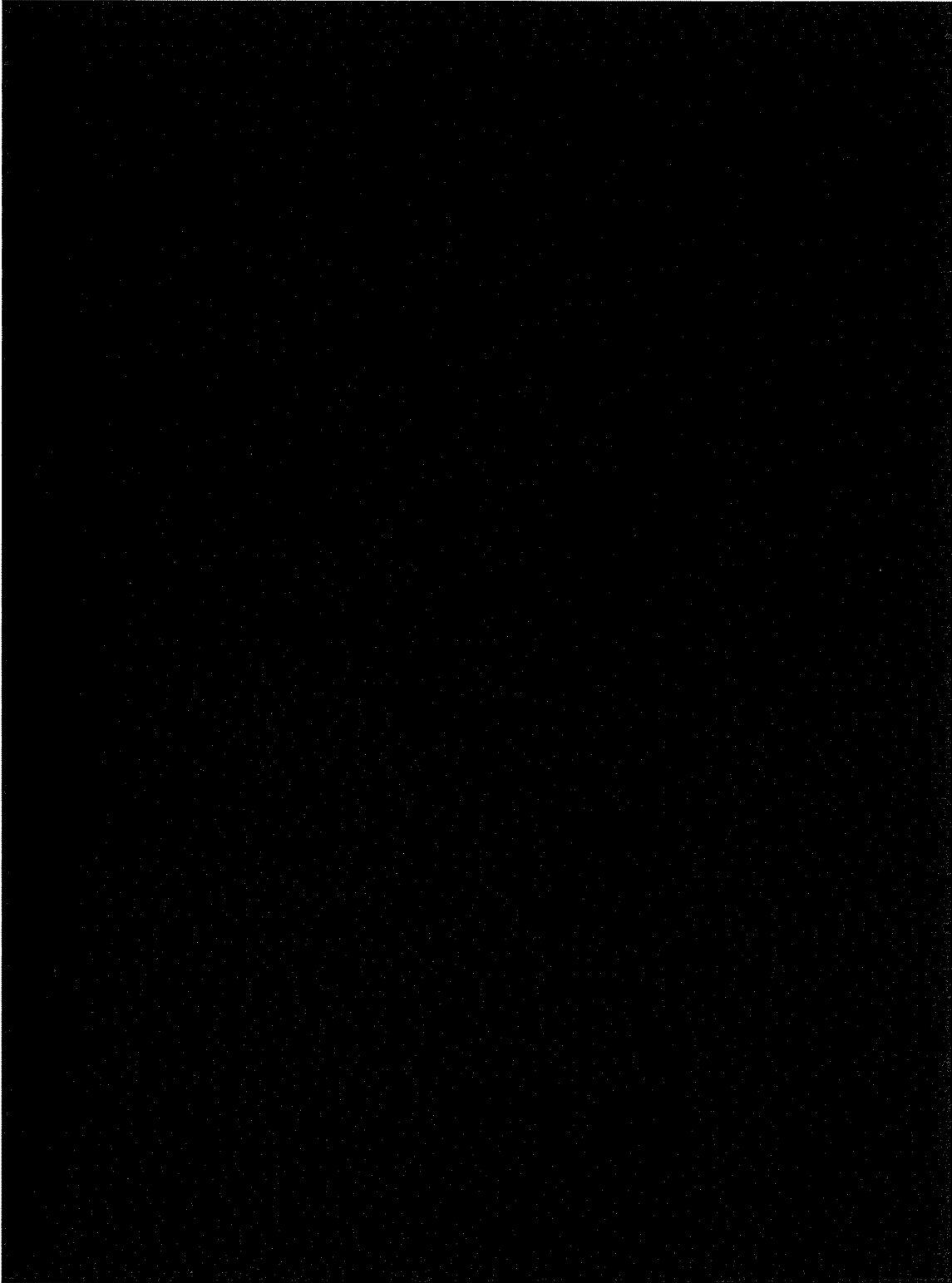
実験してみないとわからないということ？

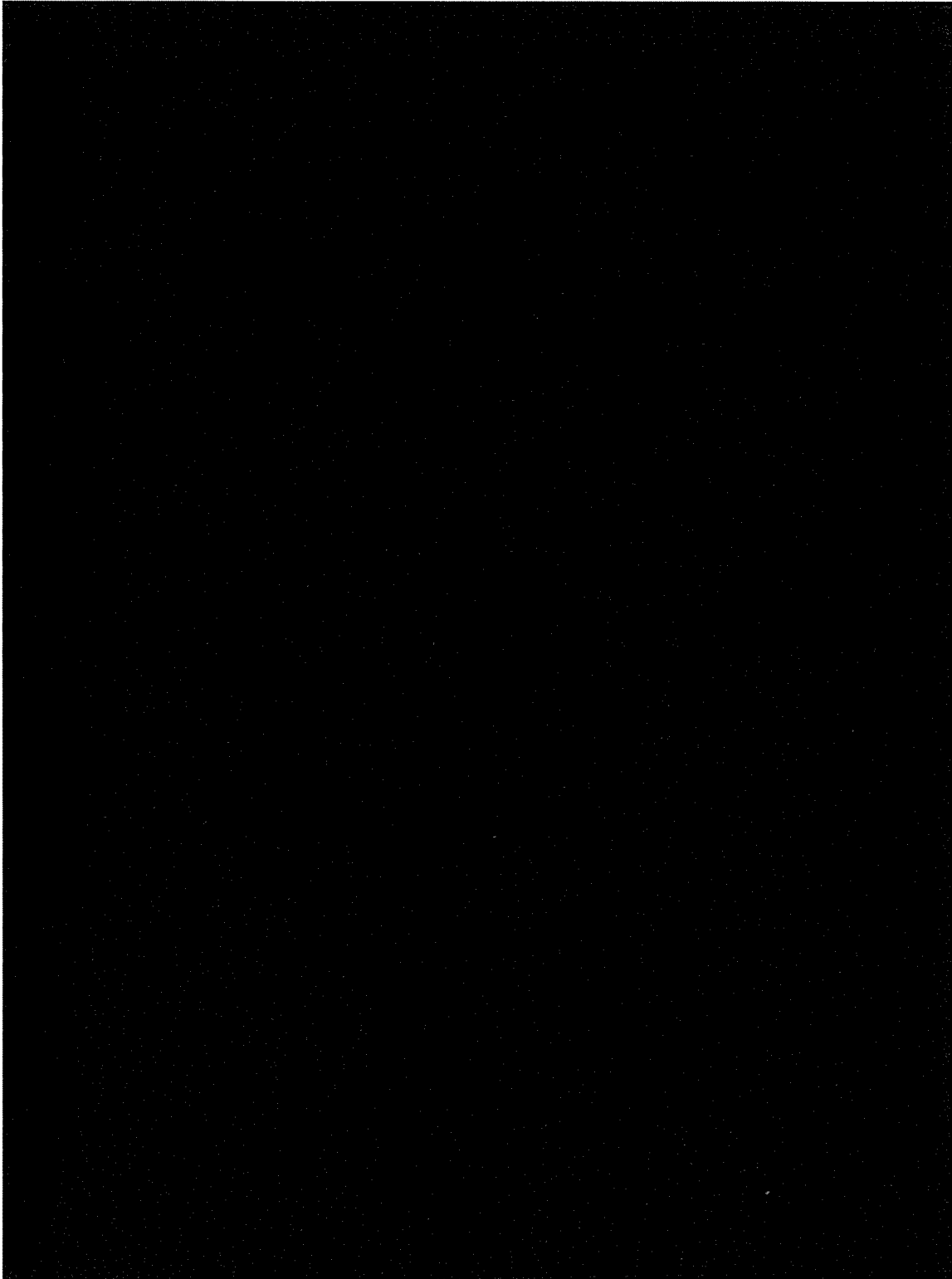
そうですね、条件にもよるので。

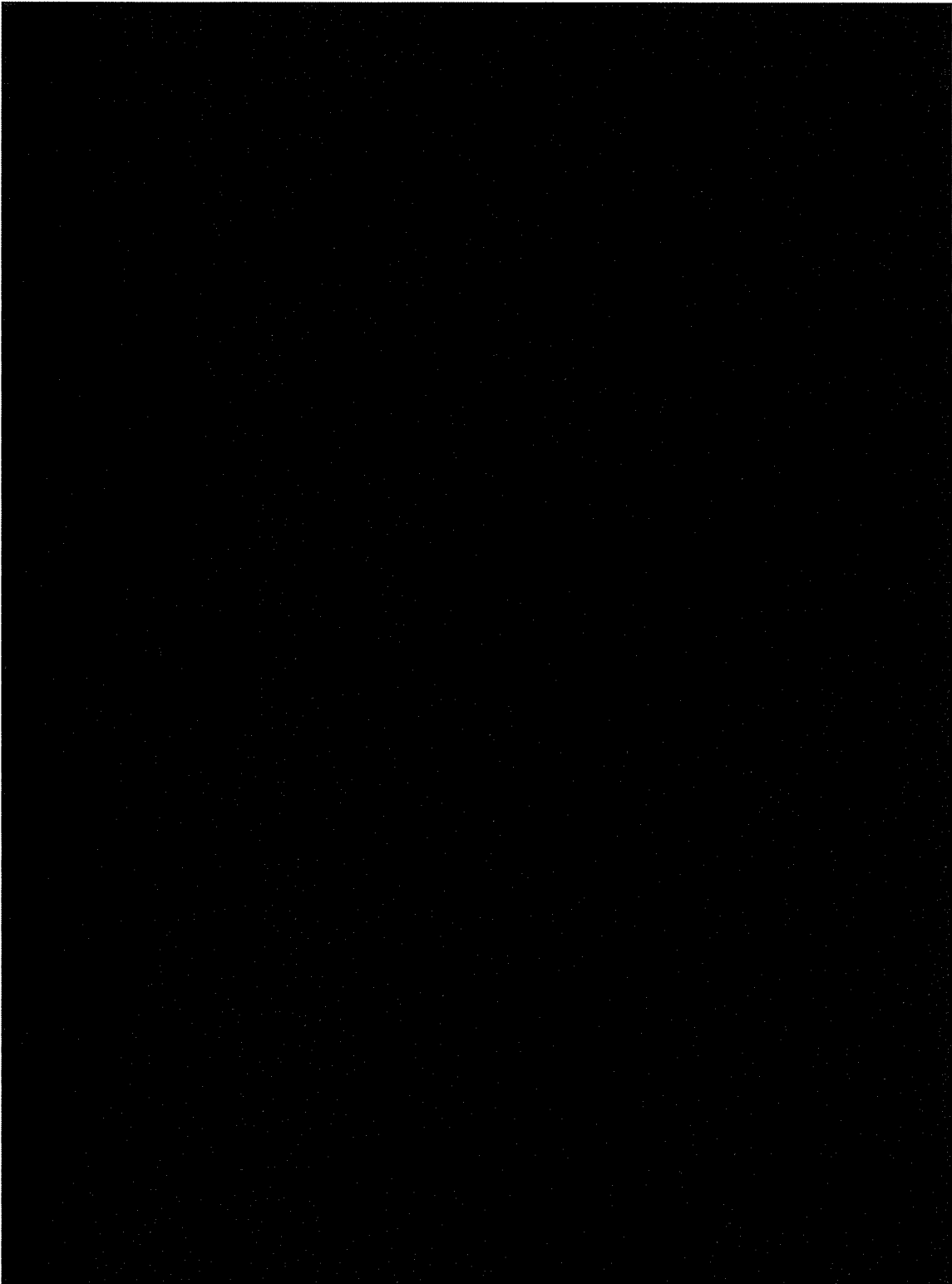


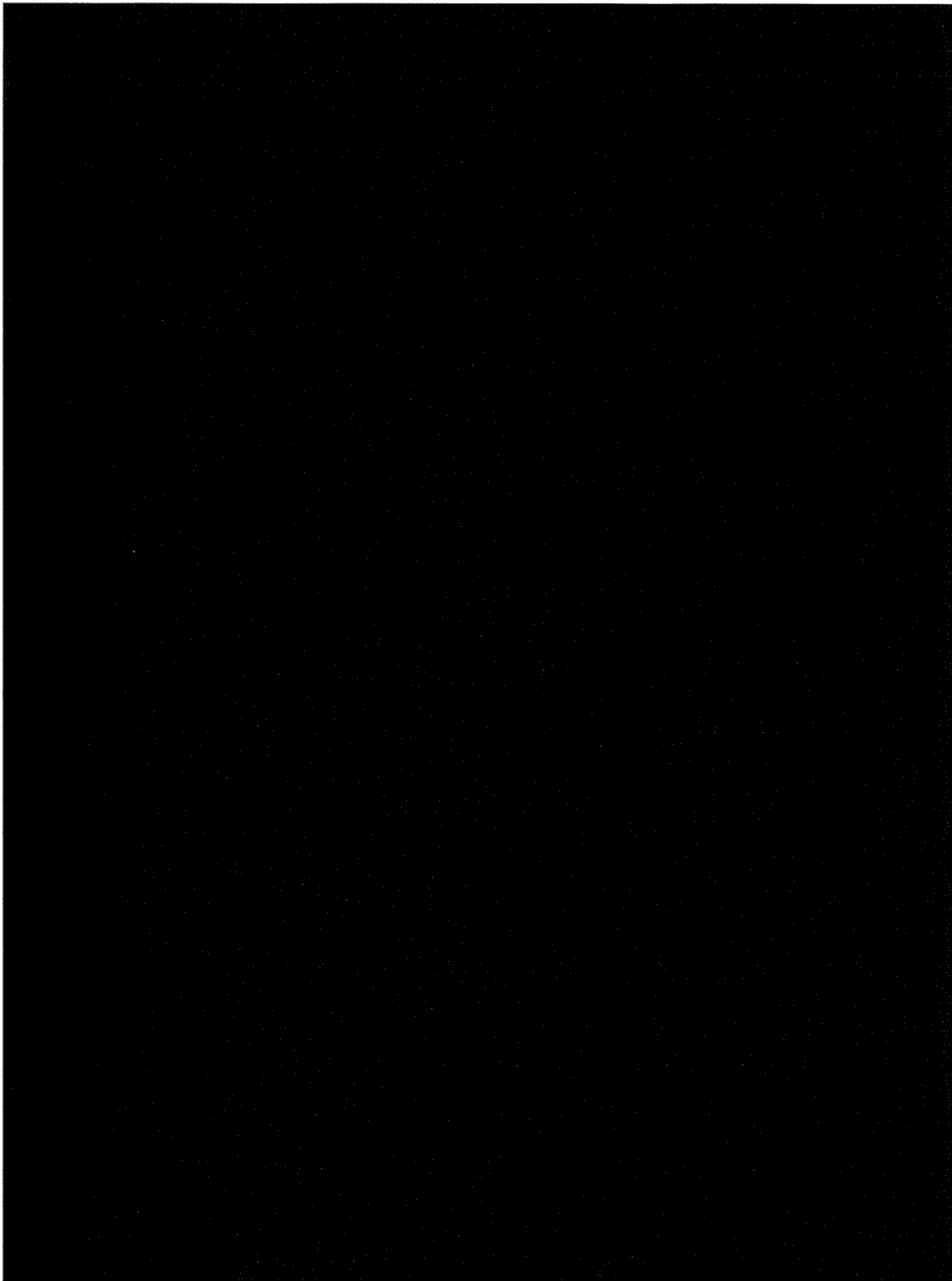


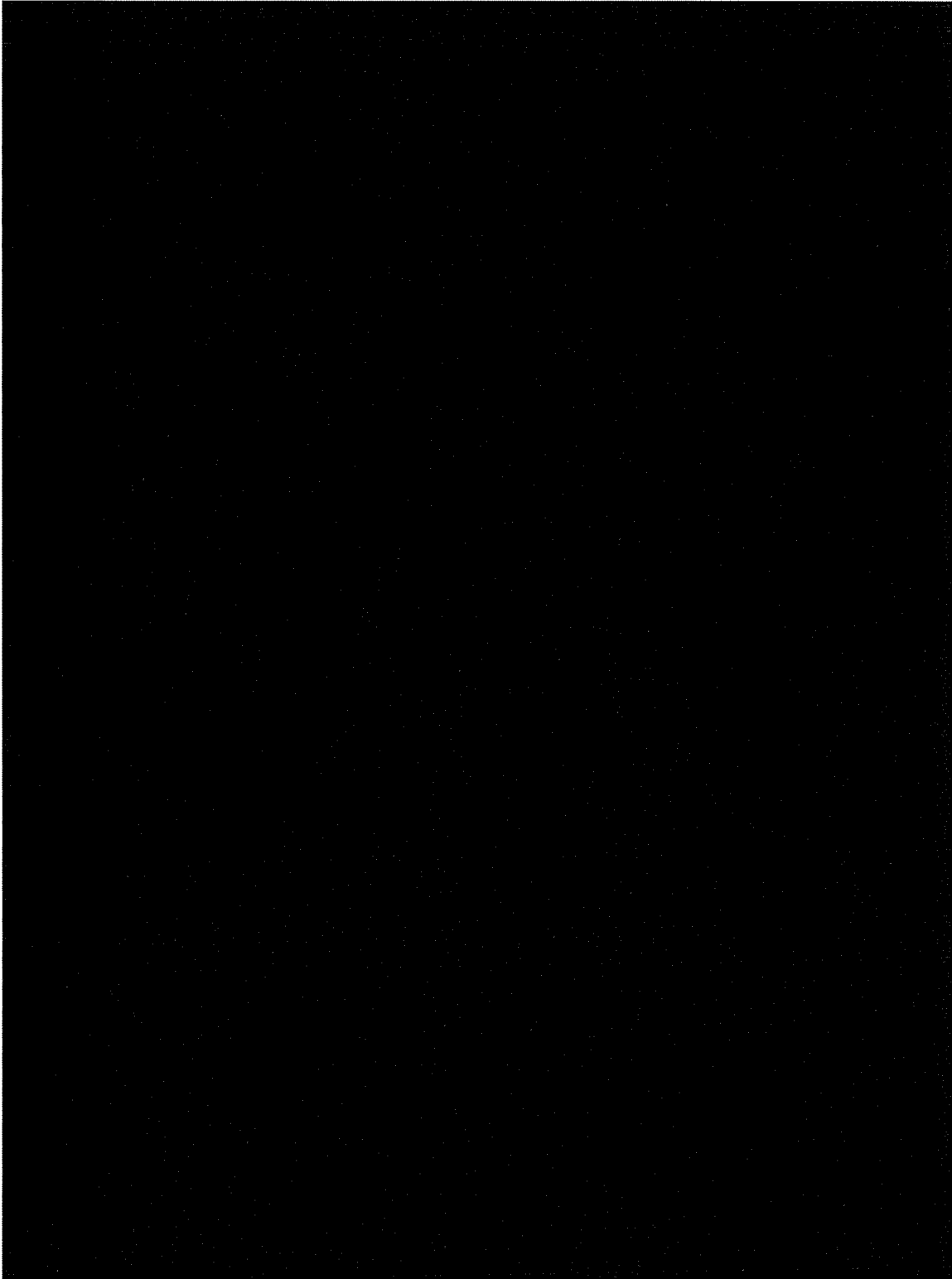


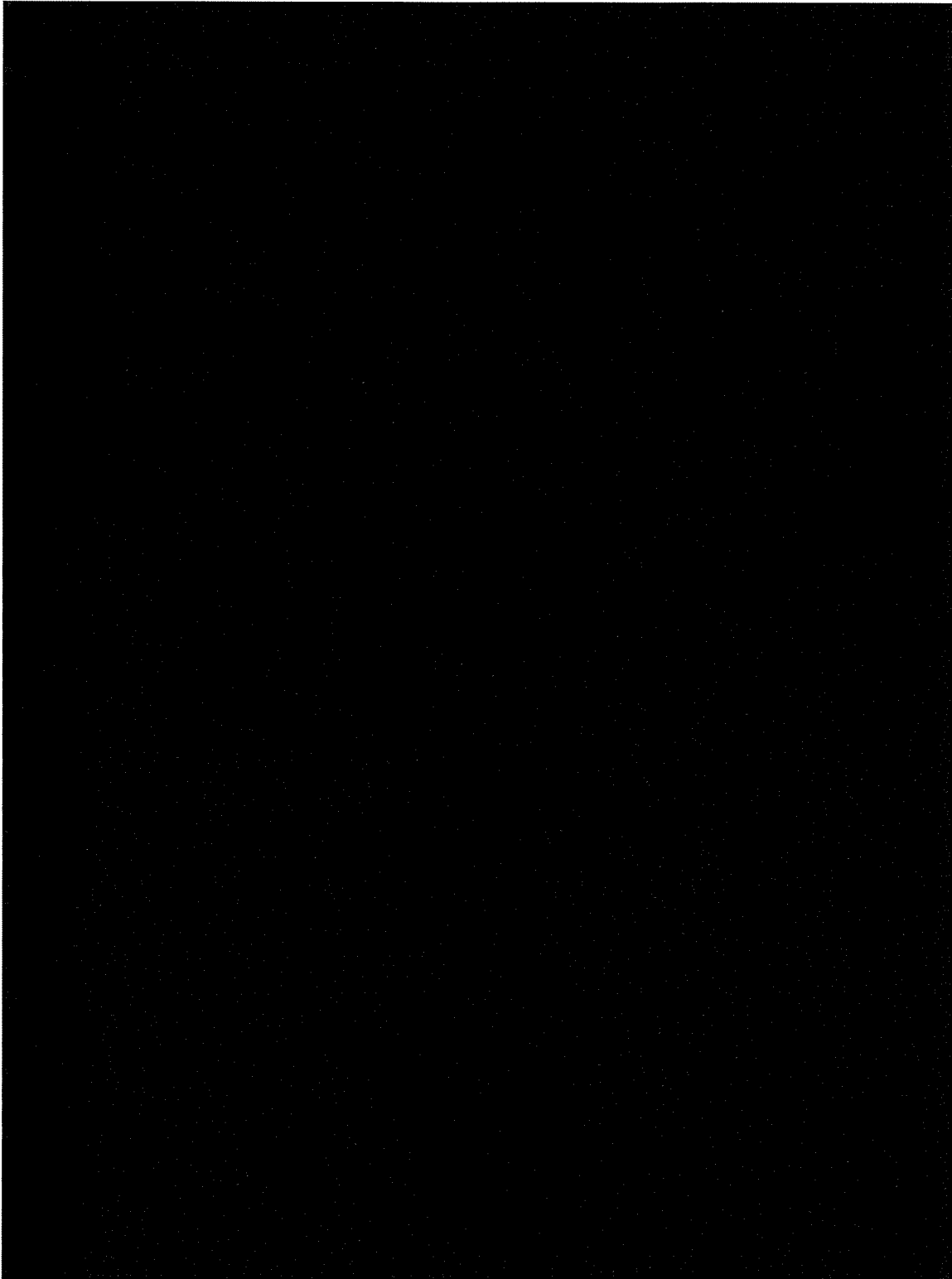


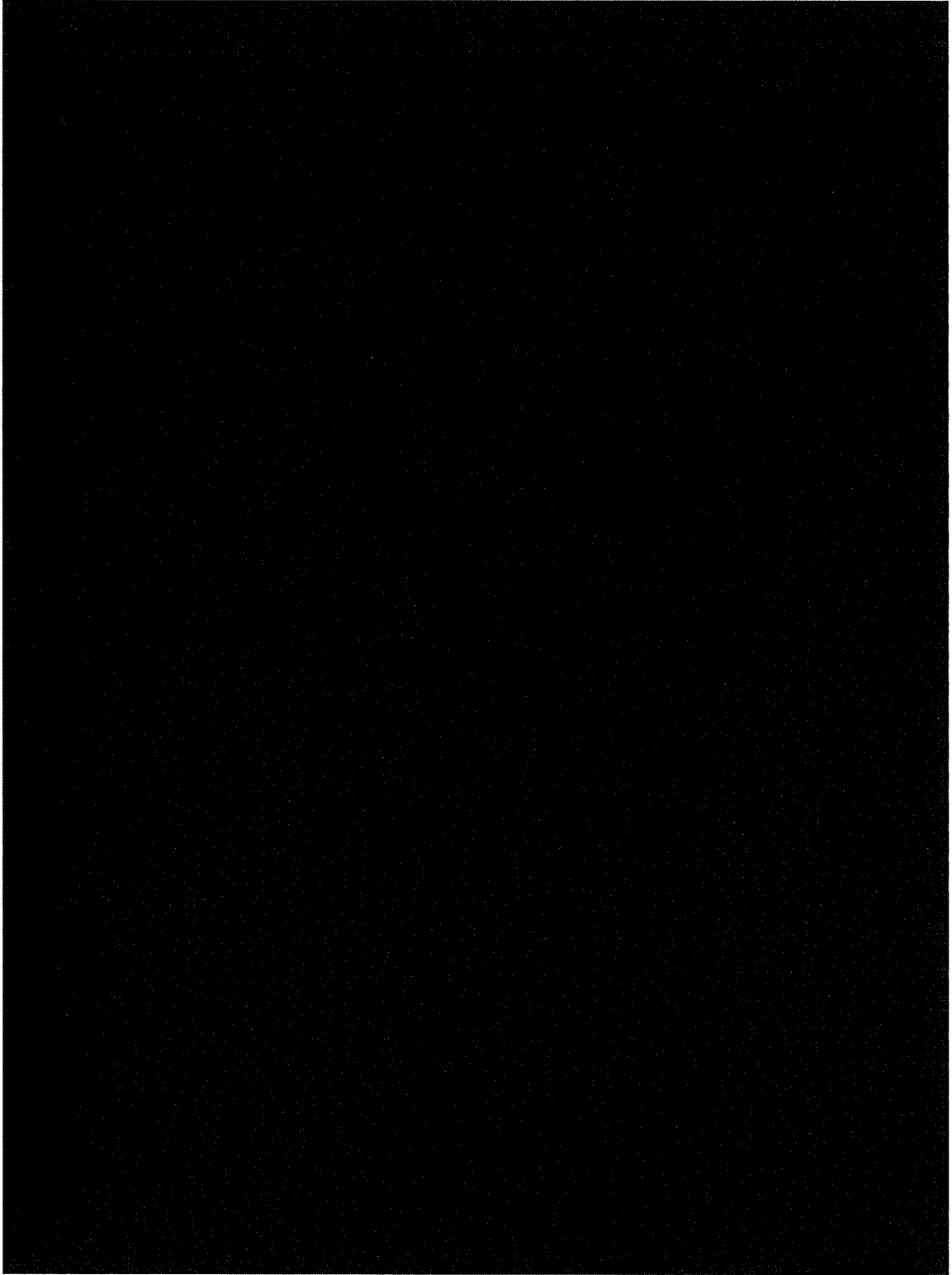


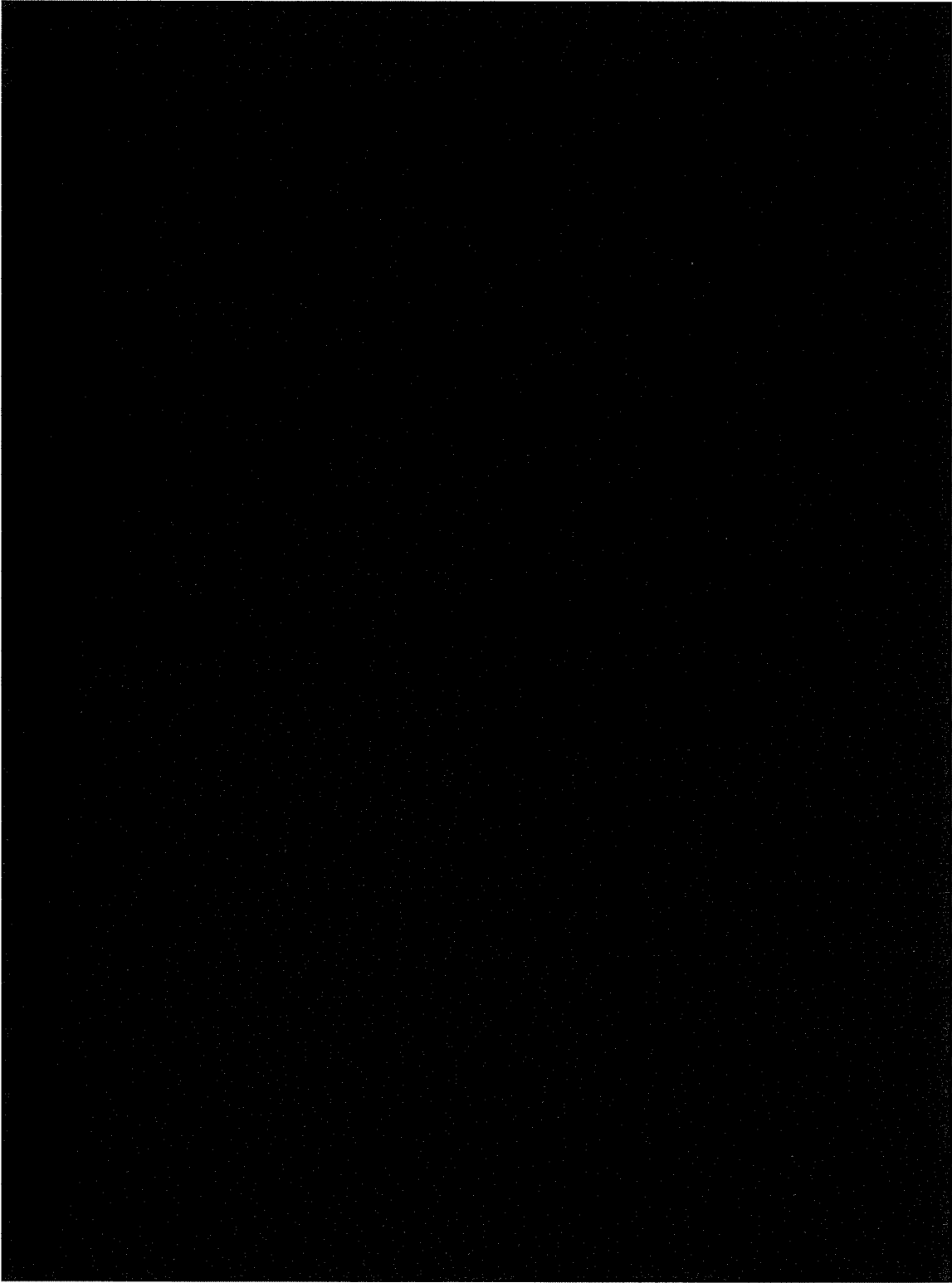


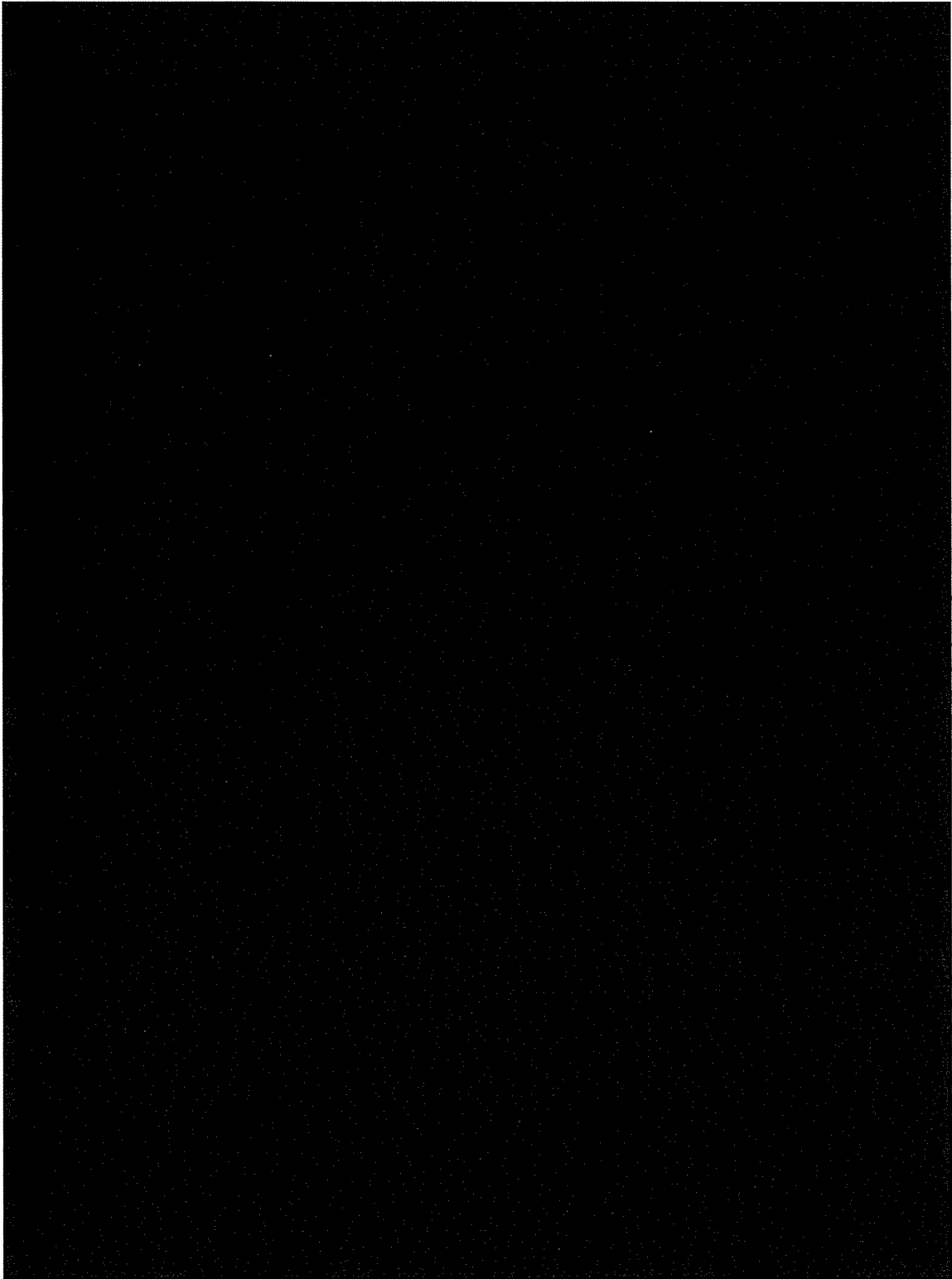


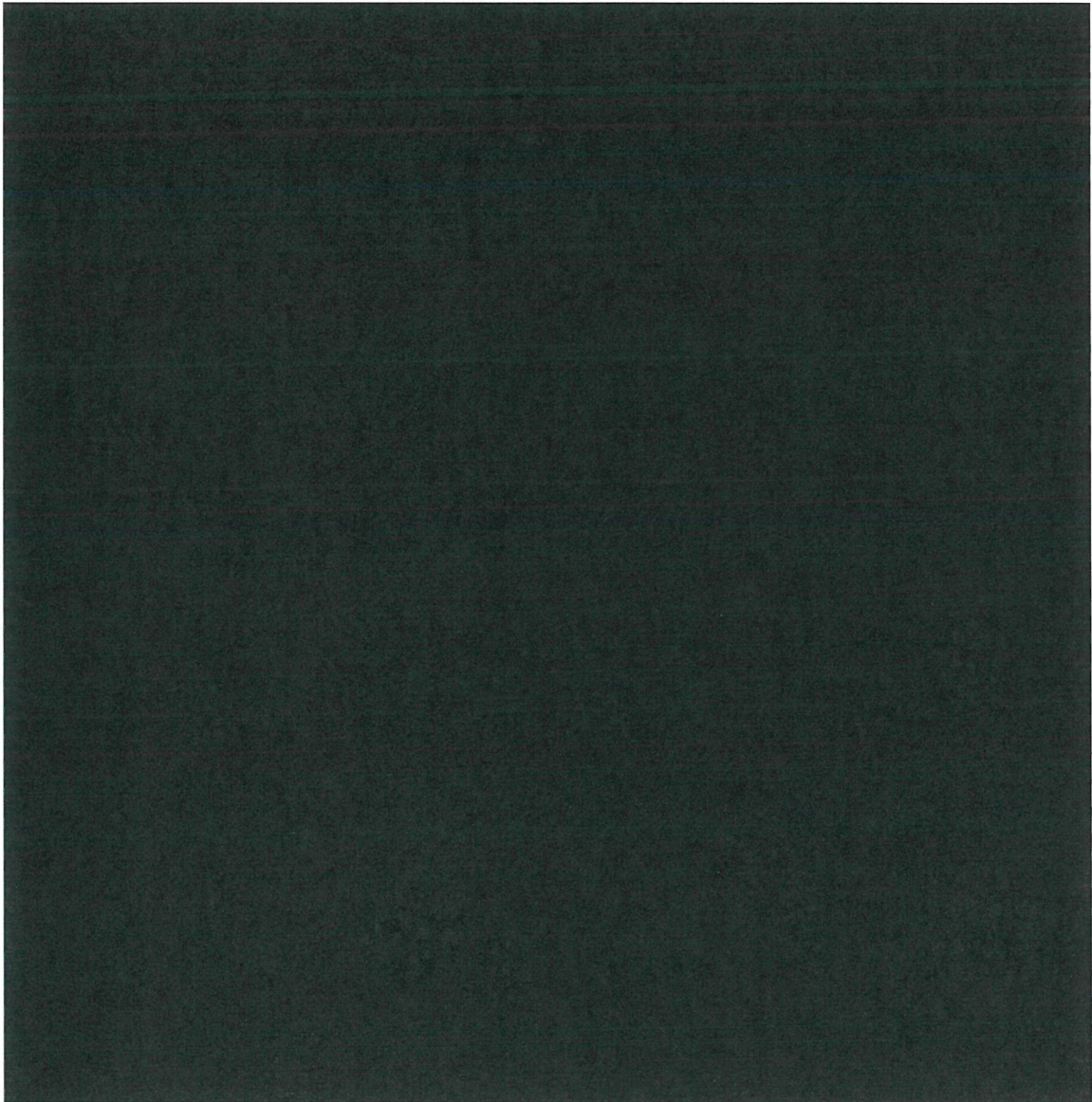












うん。ただ、だから、スプレードライヤーの構造としては、要は、風が流れているだけですよね、その終わった後とか、処理、要は滅菌工程、殺菌工程でしようとしたら、熱風流だけですよね。で、そのとき対象とする菌は、どういう状態なのかによっても違うと思うんですよ。要するに、その菌が粉にまぶされた状態とか、何か製品の中に潜っているようなところがあるならば、いくら熱風の温度とかその辺の周囲温度が高くても、その菌自体に要は熱がちゃんと届く状態が作れるかどうかを担保できなければ、殺菌滅菌できるとは、できないと思います。

担保できるってどういうことですか。

要は熱にちゃんとさらされているかどうか。要は、粉があってその中に菌があったとしたら、周りの温度が70度で死ぬ菌があったとしても周りが80度だとしたら殺菌できないと思います。ここでいうところの、いわゆる。

それは潜在的な、微生物の伝染能力っていうところが発揮できないんですか。その状態だと。

その状態を、そのまま粉にまぶされただけだから、その後その粉取り出して洗ってあげれば、菌自体は生きるっていうか、状態になりますよね。だから温度をかけたとしても、その菌がどういう状態にあるのかによると思います。

その限定をかける必要があるんですか。

えーと、限定を、それがだから滅菌殺菌できるか、だから、うーんと。

できるかできないか。いや、いやあの定義に基づくと。

はい。だからそういう状態であるなら

できるかできないか。

だから。

あるならばっていう条件があるのがわからないんですが。

そういうケースもあるので、できないと思います。

そういうケースもあってできない。

粉体が残っている。

た、そういうケースですね。

その中にあるものは温風が届かない？

そうですね。

その状態だったら別に外は滅菌できるんじゃないですか。

外は、外は、そうですね。その、要はさらされてるところはできてると思います。

だから、伝染能力っていうのは、その状態ではないわけですよね。

さらされているものは、中に残ってる菌は伝染能力もっていますよね。かつ熱がかかっていないわけですよね。

中に入っているんですよね。

はい。はい。熱にさらされているという状態が担保できればっていうこと、だから。

先ほど、この、この法律の言葉を見て、そこまで考えます？考えました？

ていうか一般的な運用を考えた場合です。どちらかという。むしろそっちが先にくると思うんですよね。我々粉屋ですので、絶対に、いわゆる有用成分っていうのは粉上のものを扱うので、どう説明すればいいのかっていうのを、ちょっと考えていただけて、要はちょっと対象のものはわかんないですけども、ましてや100%菌のやつ。100%菌の塊をスプレードライヤーにかけるわけではないと思うので。通常はそういったような形をとるのが普通だと思いますけど。何らかの有用成分と周りにいわゆる賦形剤って言われるようなもの。

賦形剤？

そうですね、はい。

有用成分があってその周りに？

そうですね。

この場合でいうと、この有用成分、中にある有用成分っていうのが菌で、賦形剤っていうのはどういうものなのかな。

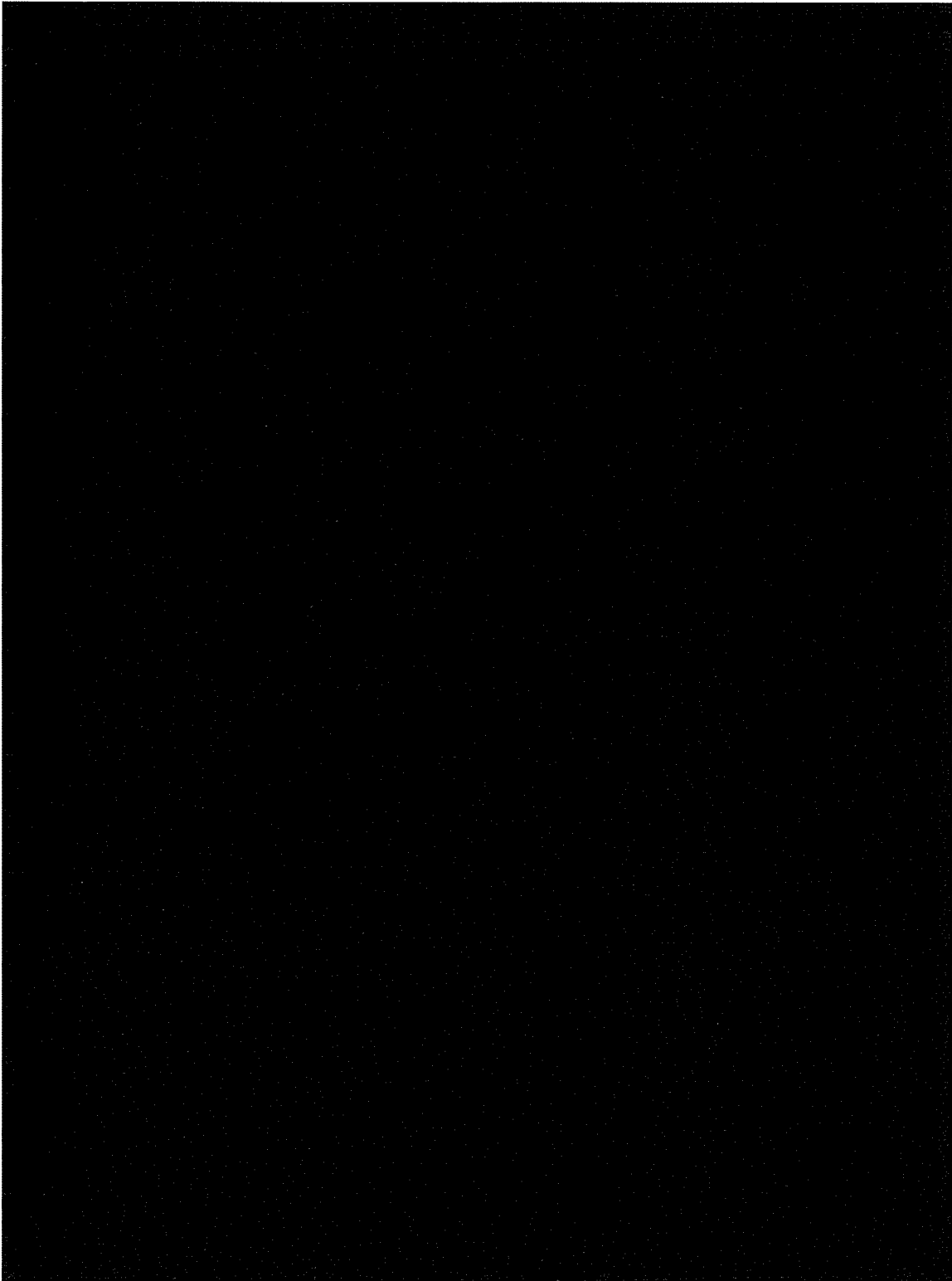
小麦粉みたいなことです、イメージでいうと。この場合はよくわからない。ただ、こういうのよくやるっていうか、よく医薬品なんかとかではそういうよくやるので、そういう形なんじゃないかなと。

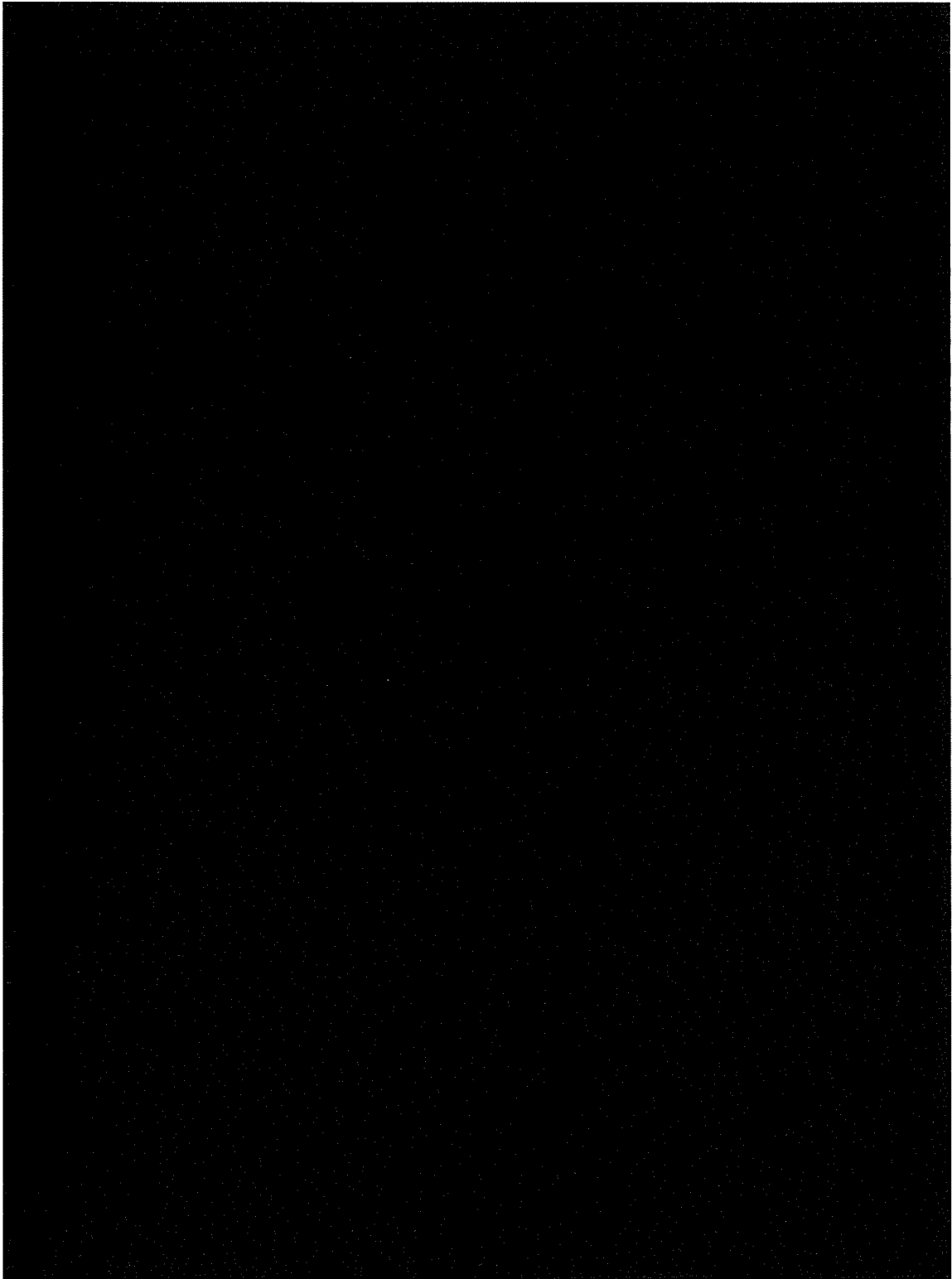
そうすると、熱風を当てても菌は殺せないと。

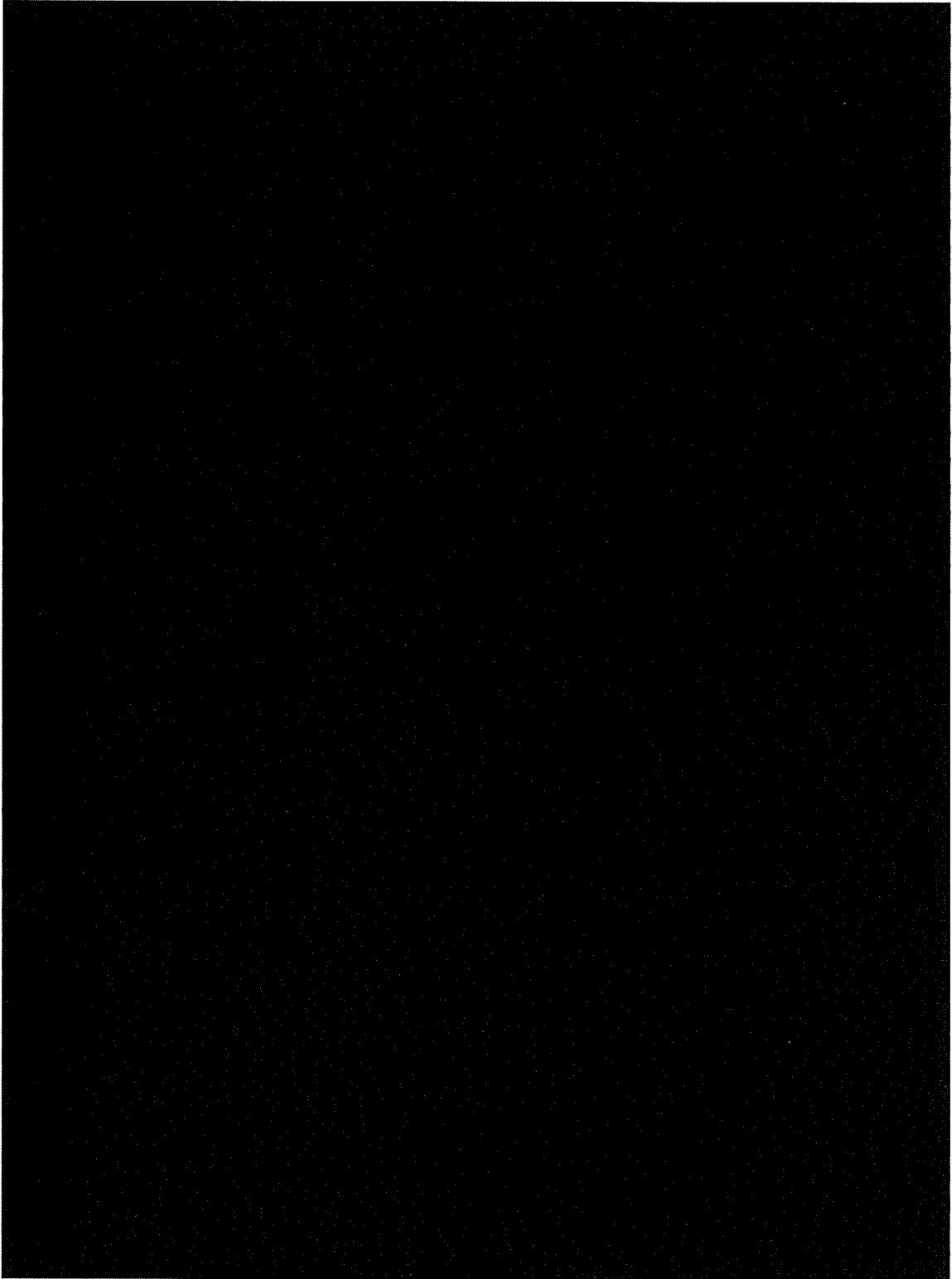
はい。

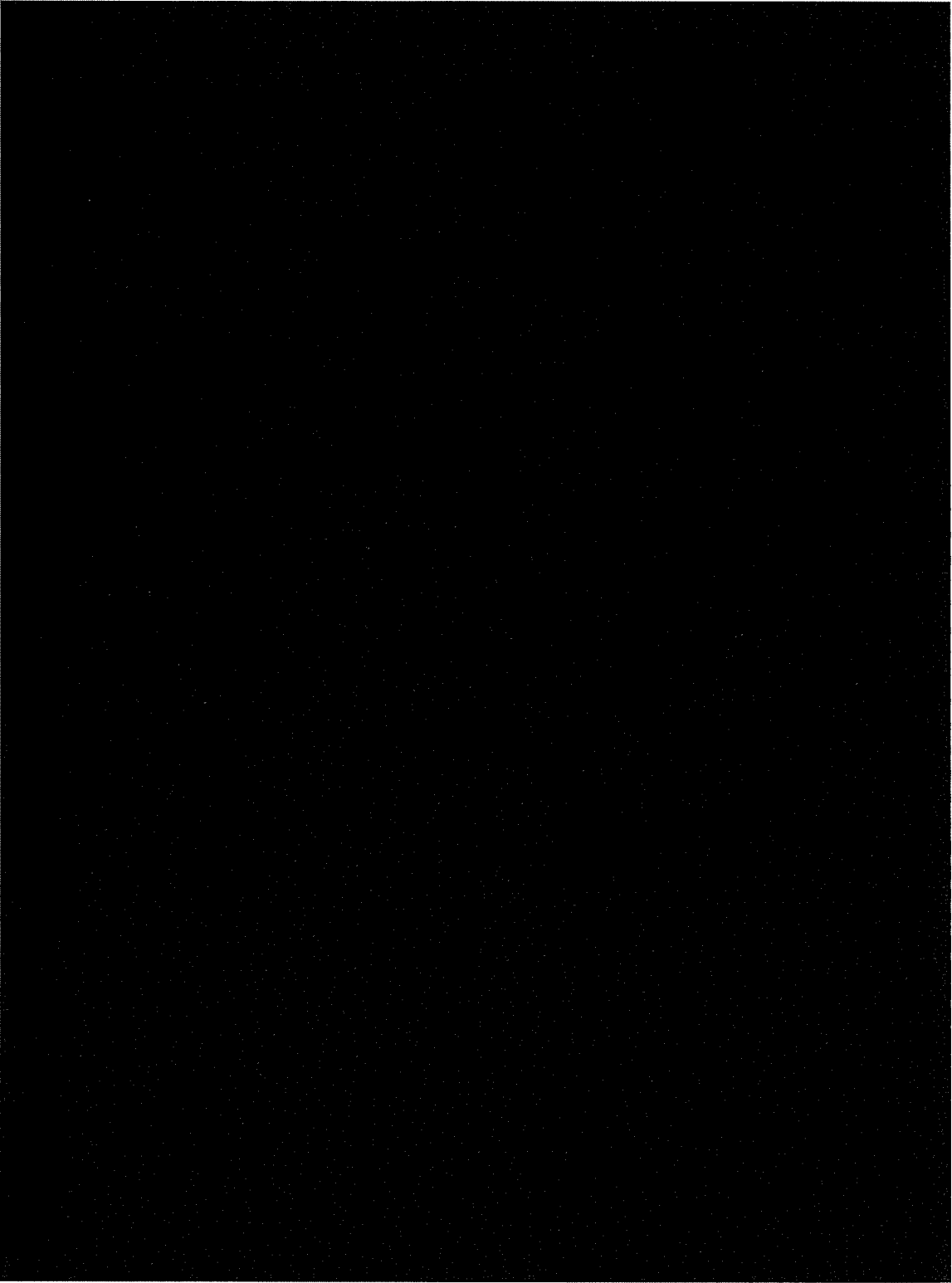
そういうことですね。

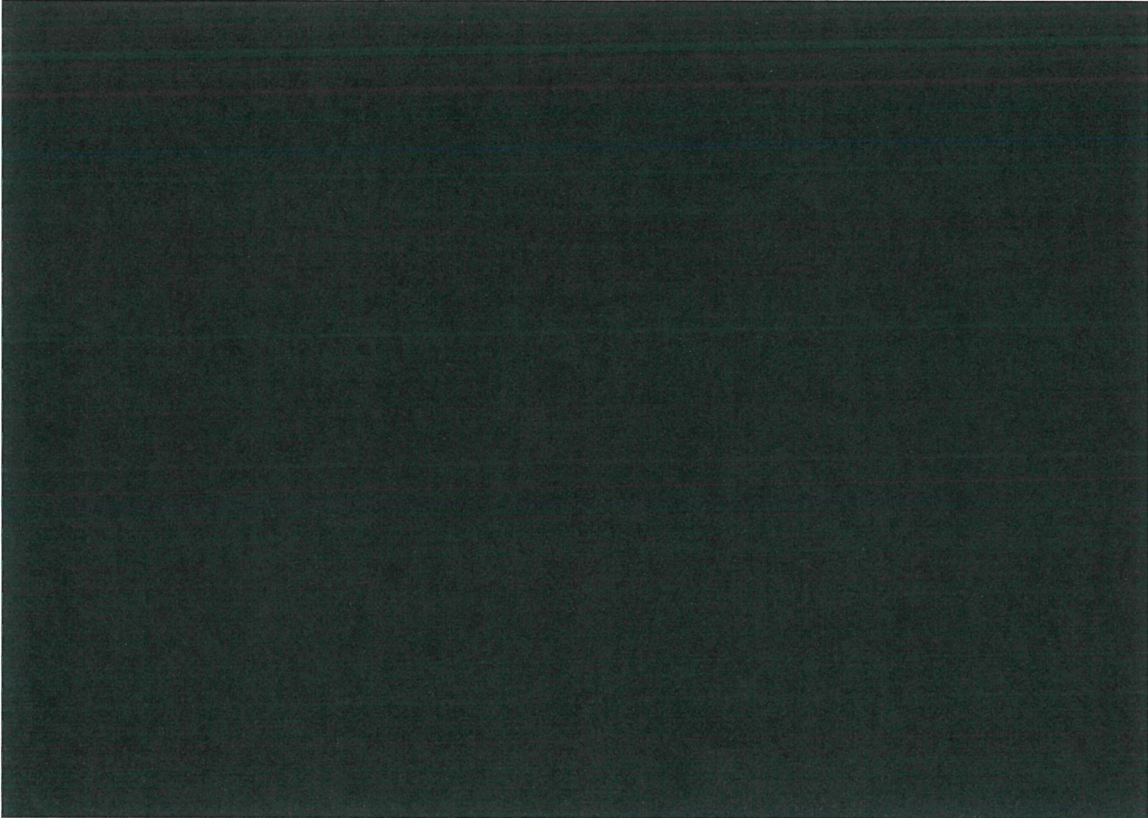
そうですね、









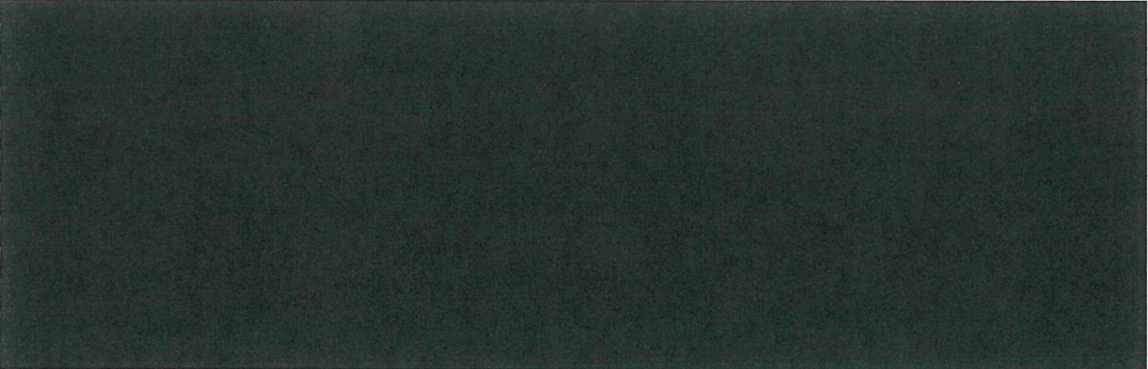


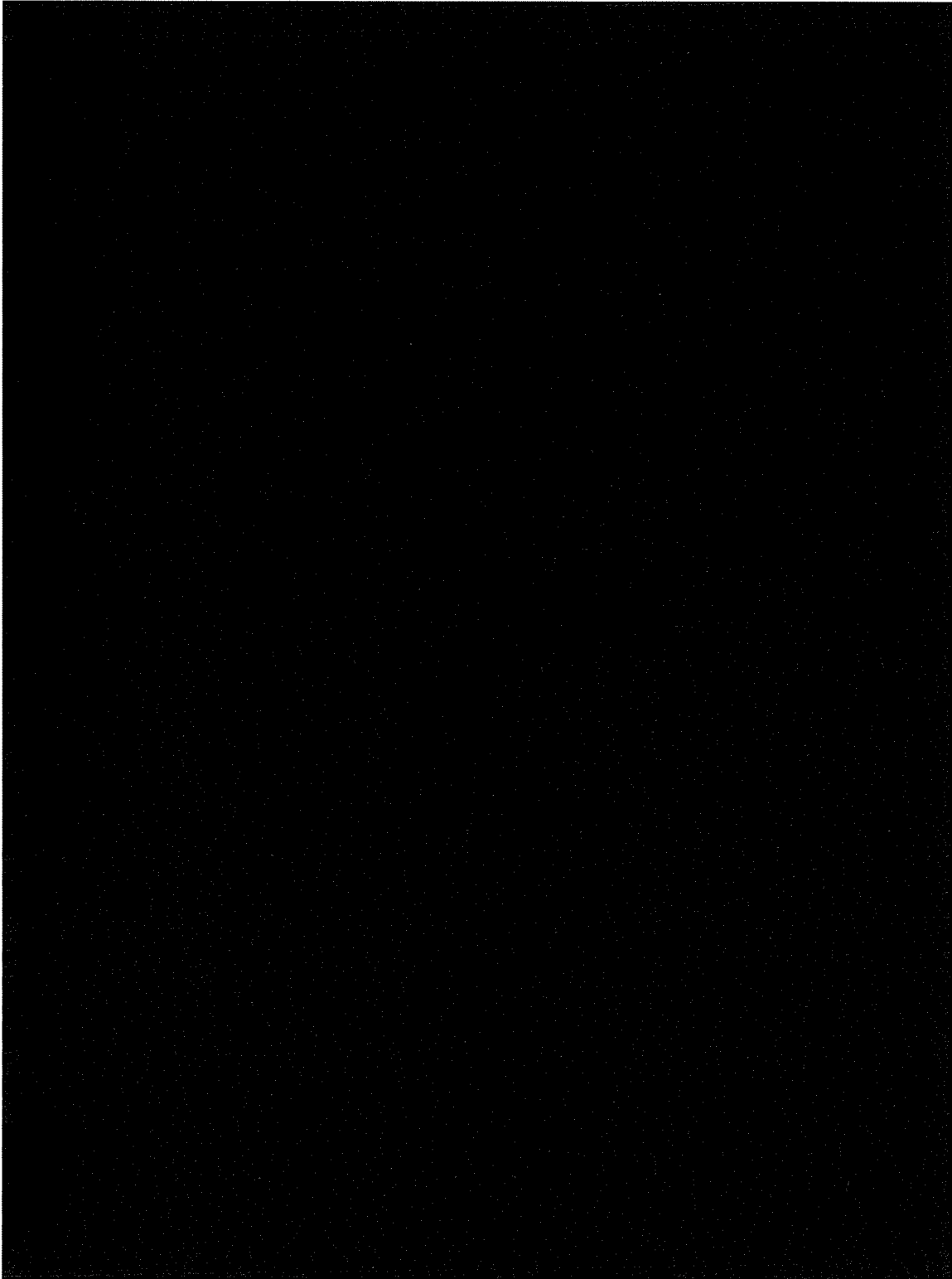
足りないっていうか、スプレードライヤーは風を流しただけでは、全然、いわゆる安全に菌が影響が出ないぐらいまで低減される、低減するのは難しい、できないと。

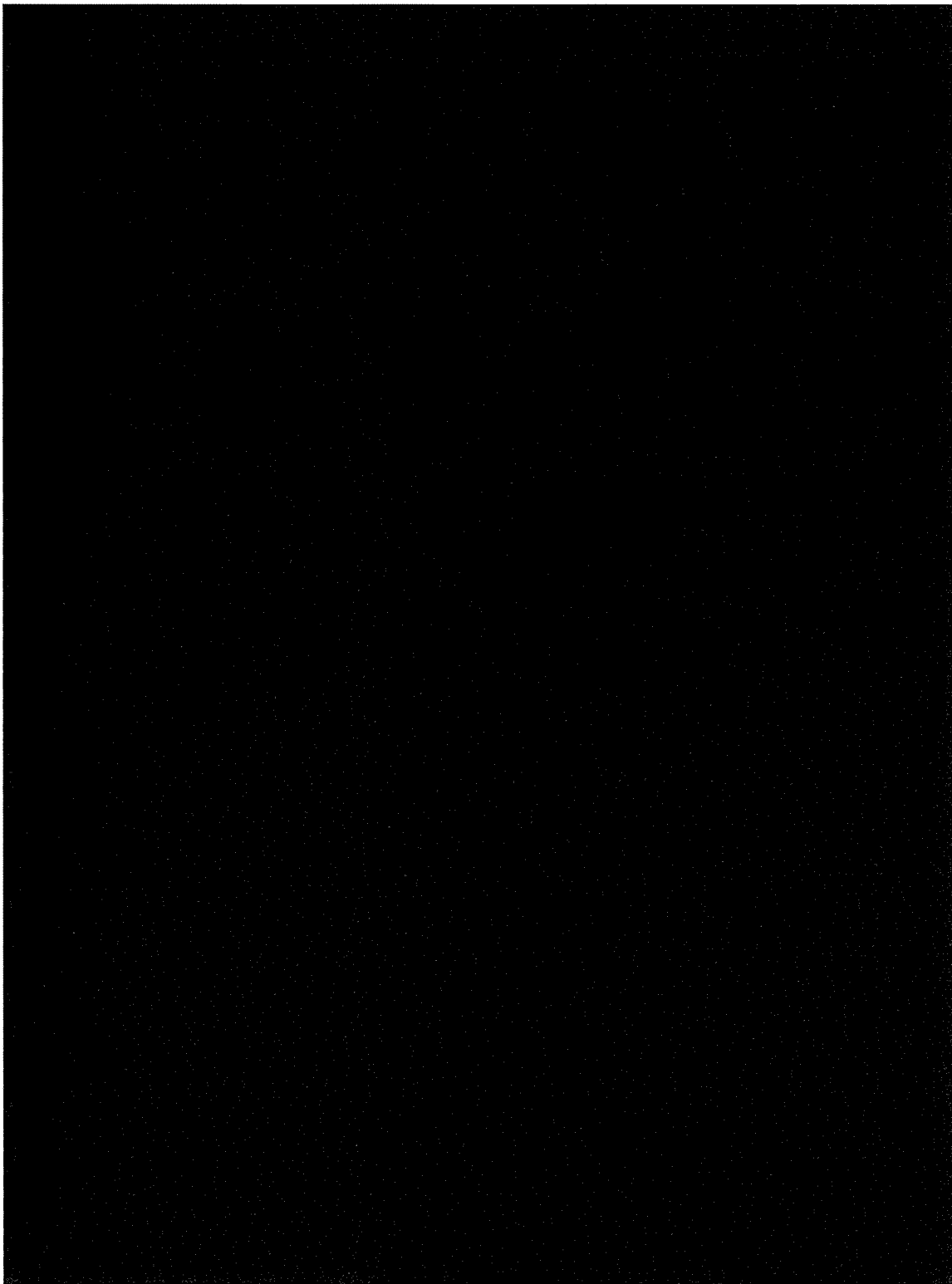
その理由は？

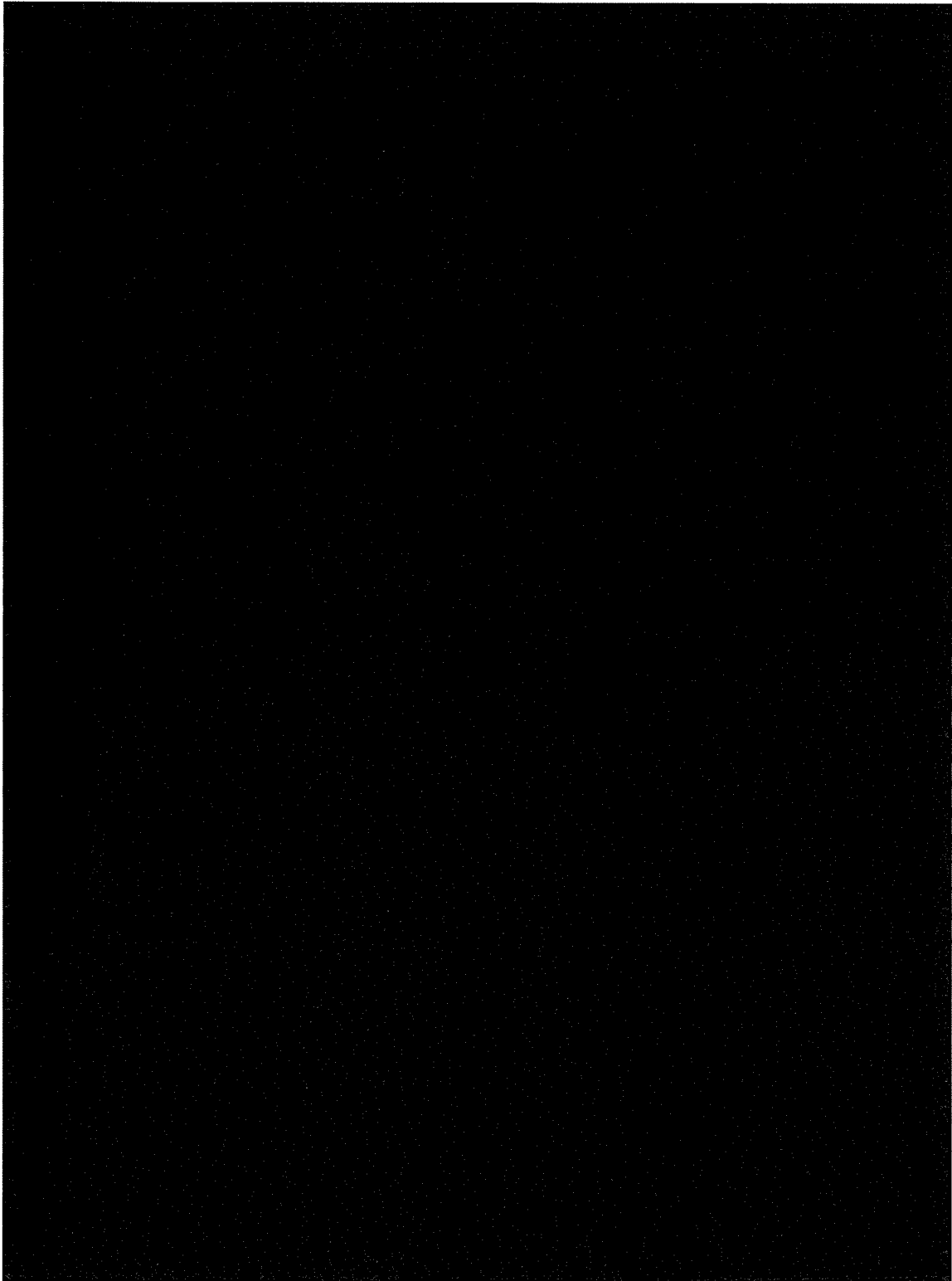
その理由は、ですので、空気の淀んでるところとかがあるし、絶対に。

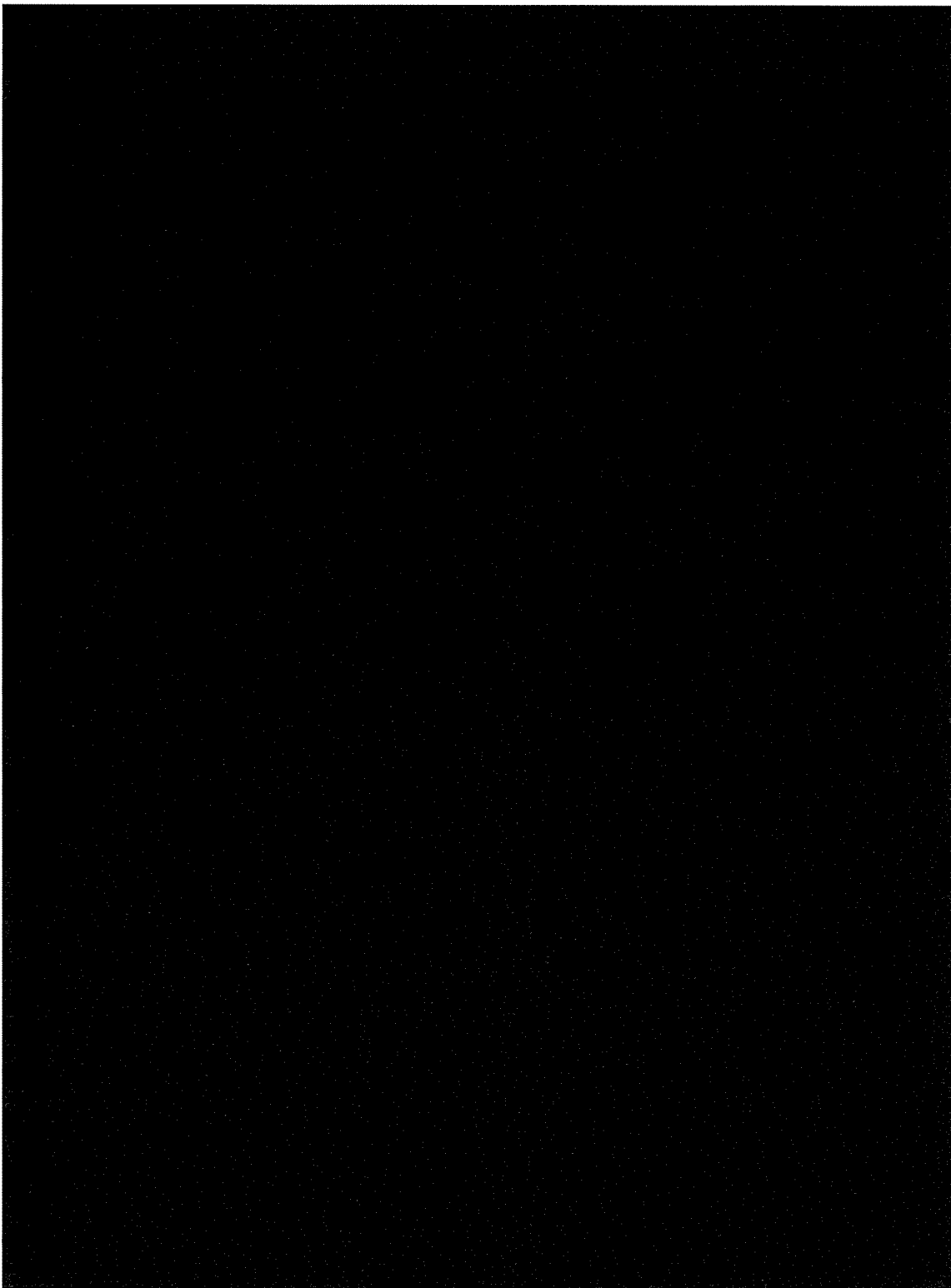
空気の淀んでるところがあると。

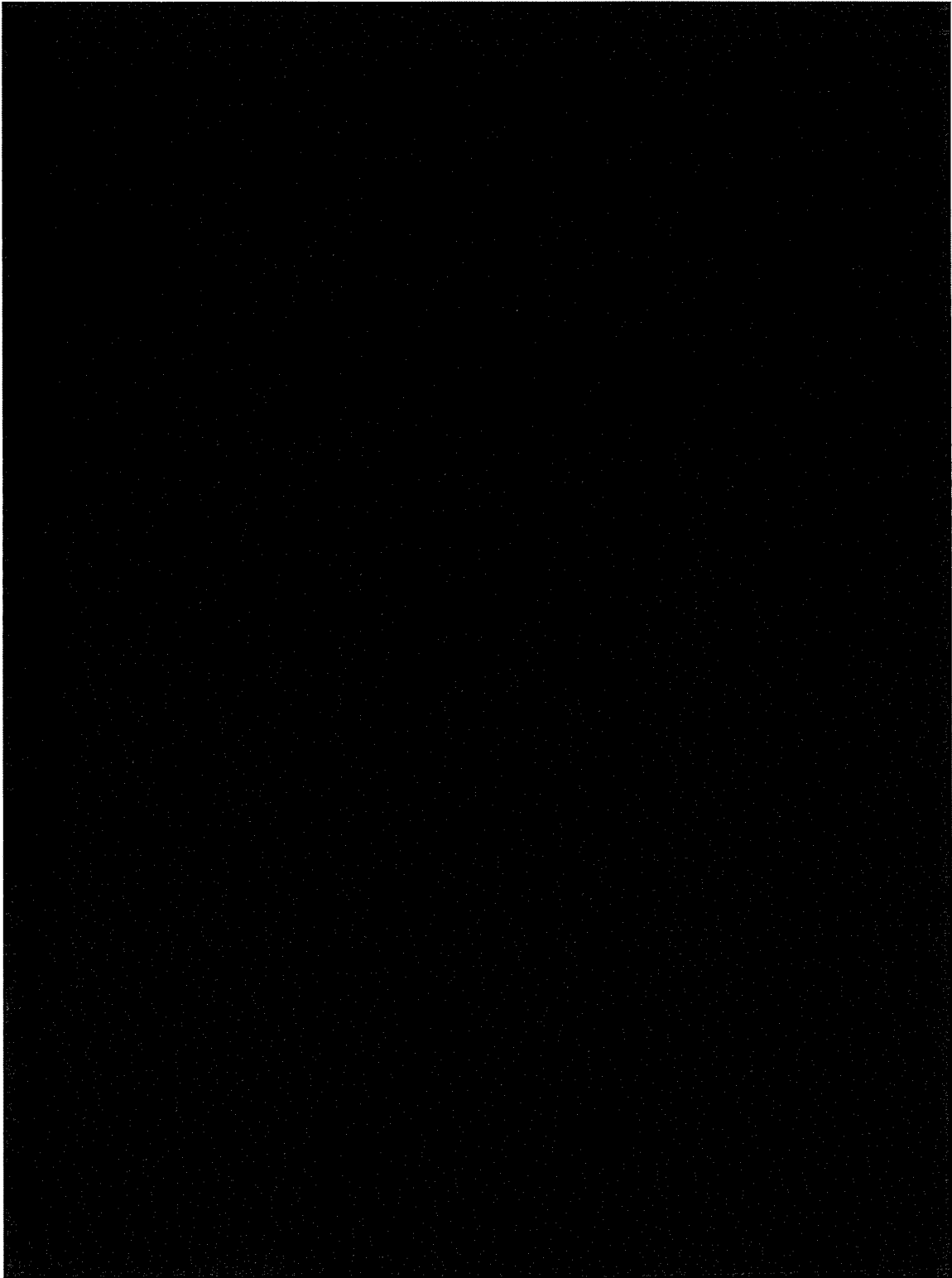


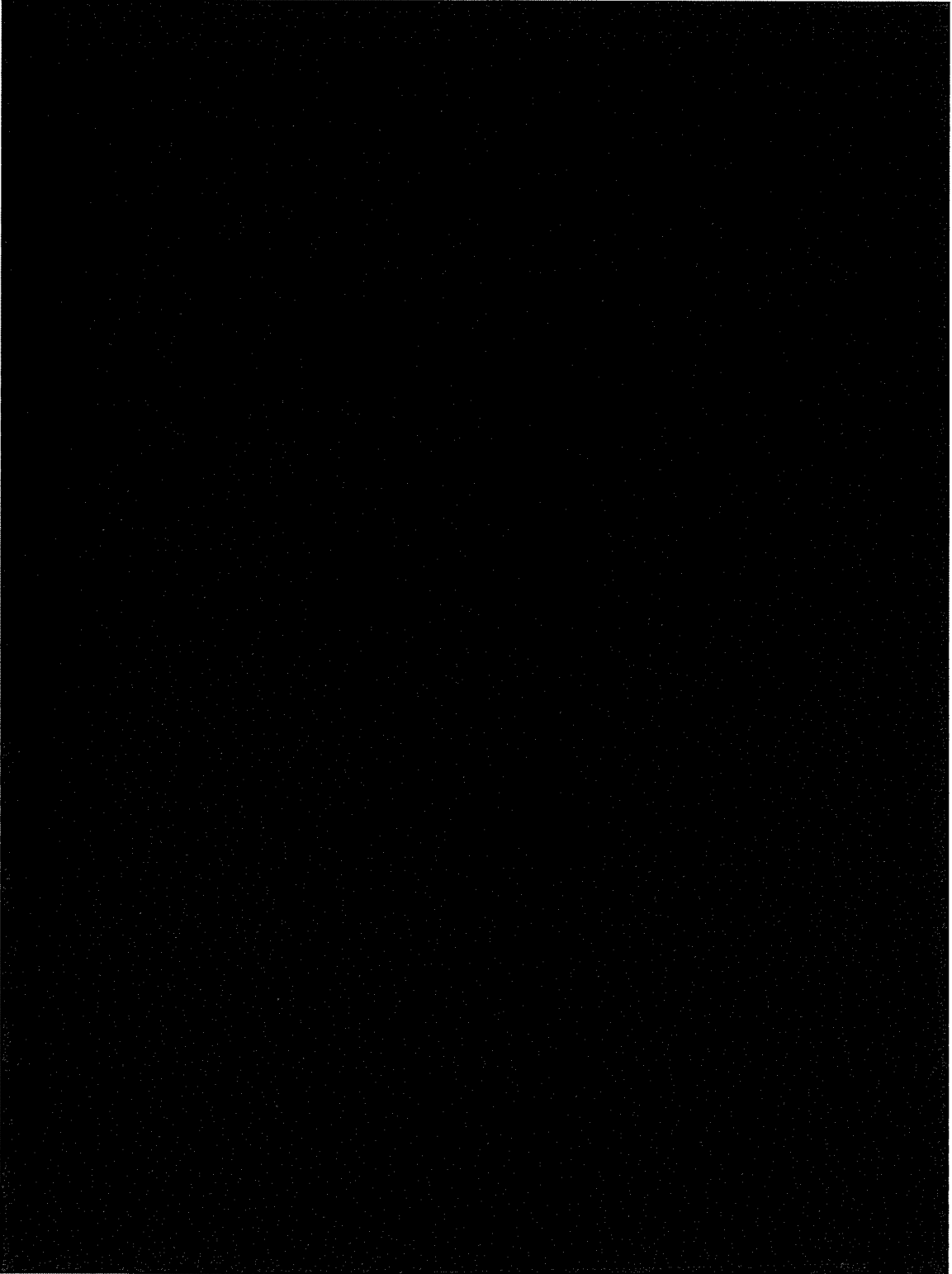












ない。結局このハの要件に該当しないというふうに根本さんは考える一番の理由ってのは、全部に熱風が行き届かないから、全ての菌に熱風が当たらない可能性があるから、そういうことですか？

菌、菌にちゃんと熱がかかることが担保できないから。

熱がかかることを担保できない理由としては。

うん。

全ての部分に、温風が行き渡って、温度があがるとは言えない。

そうですね。のと、あとその製品の形状ですね。

製品の形状というのが、製品の形状が原因で全ての部分に温度が上がるとは言えないってことですか。じゃなくて、

それはまた別問題です。その要は、温度が、何ていうか、温度が行き渡らないってこともわからないし、製品の形状も、要は、粉の中に包まれたような形の、

製品ってそちらの製品ですね。

はい、そうです。粉の、はい。

機械じゃなくて製品の方の。

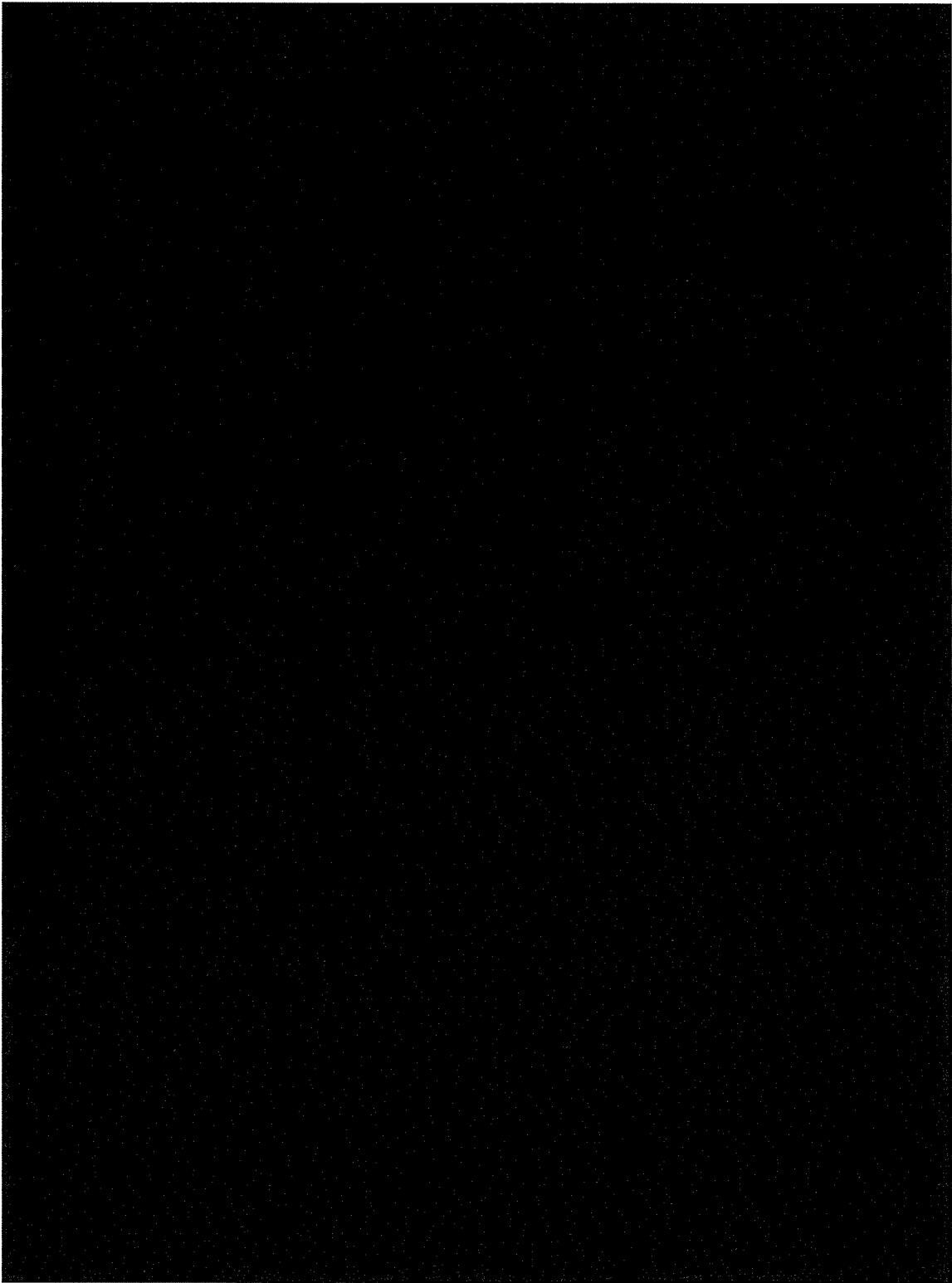
はい、そうです。粉体の方です。

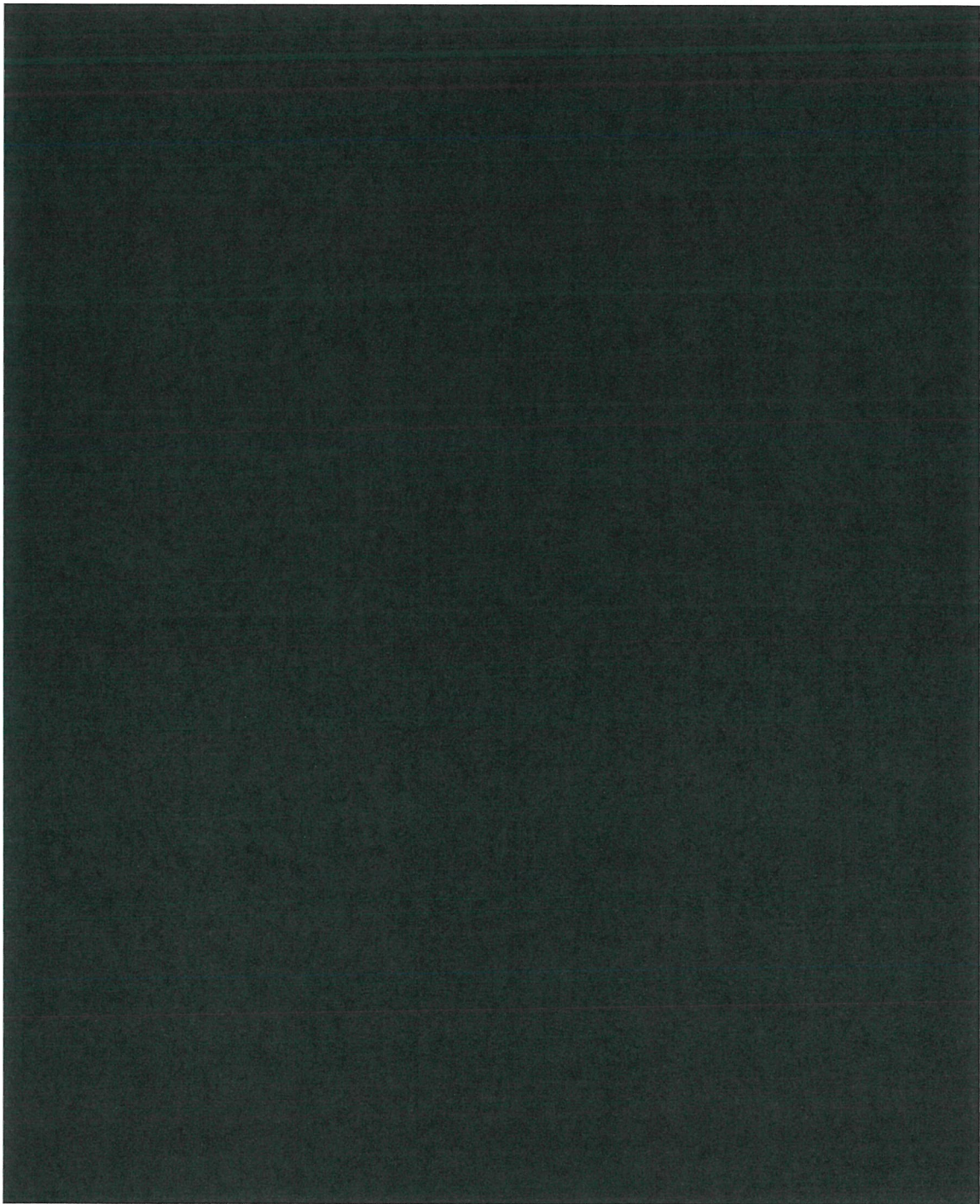
結構中に残るもんなんですか。

結構残りますね。

理由としてはその2点ですか。

まあそうですね。熱は、結局風が流れないというと一緒にですけども、風が流れない場所もあると思うのと。風が流れない、高熱がかからないということ。





ただ今日おっしゃったような限定的な解釈になると、もうほとんどやっぱ当てはまらなくなっちゃうんじゃないかなっていうふうに思って、多分そういうものを規制しようとして

いる法律ではないはずなので、それはどうかなって思うところがあります。またちょっとその内部の温度がね、どこまで下がっちゃうところがあるのか上がりきらないところがあるのかっていうところも、今日は確実に実験してないんでっていうことだったんでね、そこももう少しこちらでも確認しようとは思ってはいます。警察は実際もう実験はしてある程度結果が出てるんですけども、御社としてもお客さんには、多分、内部の温度の保証とかしながらね、機械提供してるものもあると思うんで、滅菌殺菌っていう機能としてね。ていうところもあると思うんで、そちらの方もですね、ヒアリングをしながら、またちょっとこれ捜査を進めていかなるを得ないのかなと思っていますので、今日はこれで帰っていただいて構いませんけれども、また呼ぶことがあると思います。そのときは会社を通じてまた日程調整させていただきますので、ご対応いただくようお願いいたしますね。

以上